

北海道大学ホームカミングデー2016の開催

お知らせ

- ・次期総長の選考日程の決定について
- ・医療費通知事業の実施



- 1 次の世代のための大学経営改革：人件費改革について
- 2 国立大学法人における予算の仕組みについて

全学ニュース

- 5 北海道大学ホームカミングデー2016の開催
- 20 平成28年度北海道大学インターンシップを実施
- 21 北大フロンティア基金
- 23 平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—被表彰者の決定
- 23 平成28年度北海道大学フロンティア奨学金受給者の決定
- 23 平成28年度小島三司奨学金受給者の決定
- 24 独立行政法人日本学術振興会 平成27年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から3名
- 25 第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）に山口総長が出席
- 26 コチュテル・プログラム参加学生（シドニー大学）が来日
- 26 新入留学生オリエンテーションを実施
- 27 国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第3回医学物理サマースクールを開催
- 27 「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙行
- 28 国際シンポジウム「学生と共に創る教育の質保証～SA, TA, PFFなどのこれから～」を開催
- 28 Workshop on creating rubricsを開催
- 29 第30回北海道大学教育ワークショップを開催
- 30 平成28年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- 30 研究者のためのスキルアップセミナー⑧「伝わるデザインの法則：外部資金獲得のためのレイアウトとデザイン」を開催
- 31 第37回創成科学サロン&夏の宴を開催
- 32 第1回食科学プラットフォームセミナーを開催
- 33 人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで第29回「赤い糸会&緑の会」を開催
- 34 平成28年度北海道地区国立大学教養教育連携実施事業FDフォーラム「北海道から遠隔授業を考える」を開催

部局ニュース

- 35 山口総長、徳久理事・事務局長が練習船おしよろ丸に乗船
- 35 理学院がベトナム科学技術院数学研究所とダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結
- 36 薬学研究院・薬学部で台北医学大学との学生交流（受入れ・派遣）を実施
- 37 薬学研究院・薬学部がThe 2nd HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciencesに参加



理学院
ベトナム科学技術院数学研究所とダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書締結



農学院
留学生オリエンテーション



ホームカミングデー2016



- 37 平成28年度地球環境科学研究院公開講座「サステナビリティに資する化学」の終了について
- 38 先端生命科学研究院・生命科学院FD研修「ルーブリック入門」を開催
- 38 農学研究院で平成28年度第1回FD研修会を開催
- 39 農学院において「留学生オリエンテーション」を開催
- 40 農学研究院が台湾・中興大学演習林開設100年記念シンポジウムに参加
- 40 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- 41 動物慰霊式を挙行
- 42 総合博物館リニューアルオープン記念企画展示「ランの王国」を開催
- 43 附属図書館で北海道大学インターンシップ・図書館実習を実施
- 43 北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受入れ
- 44 附属図書館が第1回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催
- 44 北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施
- 45 工学研究院で「第10回八大学工学部長会議」及び「第132回八大学工学関連研究科長等会議」を開催
- 46 リーディングプログラム新プログラム生20名を採用

お知らせ

- 47 次期総長の選考日程の決定について
- 47 医療費通知事業の実施

博士学位記授与 48

レクリエーション

- 56 教職員卓球大会の開催 —団体戦・ペア・個人戦—
- 57 平成28年度 第46回 札幌社会人サッカーリーグに出場
- 58 平成28年度学内教職員フットサル大会の開催

諸会議の開催状況 59

学内規程 60

表敬訪問 64

人事 65

- 69 部局長等（再任）紹介
- 69 新任教授紹介
- 71 新任部課長等紹介

訃報

- 72 名誉教授 佐久間 敏雄 氏



附属図書館 北図書館
札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒受入れ



北海道大学病院
災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練

表紙：北海道大学ホームカミングデー2016「歓迎式典・記念講演会」（関連記事5頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景④ 黄葉の山路に挑む

次の世代のための大学経営改革： 人件費改革について

総長 やまぐち 山口 けいぞう 佳三



3月の教育研究評議会・経営協議会において「第3期中期目標期間における財政計画案」を提示しました。その中で、国から大学に措置される運営費交付金が年々削減される経営環境において人件費も含めた財政の見直しをする必要があり、その検討に入ると報告をしました。その後、企画・経営室と理事間の検討を経て、8月の臨時部局長等連絡会議において具体的な策として「人件費抑制のための教員人件費ポイントの削減方策案」を提案し、部局長を通して教職員の皆様に意見を求めました。その結果、ほぼ全ての部局の皆様から率直な質問や大学の将来を憂う意見、また定量的な分析に基づく建設的な提案を数多くいただきました。これを通して私たち執行部は、改めて教職員の皆様の本学及び本学のなすべき教育研究活動に対する強い想いに心を強くしました。同時に、本学も含めた国立大学法人の置かれている社会的状況や経営環境の急速な変化と、本学の経営状況を教職員の皆様にしっかり発信し、共通理解を得るための努力が足りなかったと反省しています。これを契機に教職員一人ひとりが本学を取り巻く環境の理解を深め、そのうえで共に本学が目指す国立大学法人の新しい大学経営を作りあげたいと思います。

まず、本学の財政悪化の背景には、運営費交付金削減も含めた国の施策としての急速な「国立大学改革」があります。これは、文部科学省の下部組織としての全国均一の国立大学から、個々の大学が自律的に個性を伸ばすための経営機能を持つ国立大学法人に変わるためのものです。他方、国の財政危機や18歳人口の減少により、私たち教職員の人件費の原資となる運営費交付金の改革等が数年前から急速に進行しています。これは本学のみならず国立大学法人共通の問題です。国立大学の規模によって事情は異なりますが、全ての大学で人件費削減が避けられない状況にあります。このため、個々の国立大学法人や国立大学協会等がいろいろなチャンネルを通して要望等を繰り返しています。

その中で、平成28年度予算において、人件費・部局の基盤運営経費に充当される（一般）運営費交付金は、本学を含む第3カテゴリーに属する全ての大学では毎年1.6%削減となりました。このような運営費交付金の削減は、今始まった話ではなく、第1期、第2期中期目標期間（12年間で10%以上）を通して行われてきました。さらに、今期（6年間で5%以上）以降も続く想定されます。そこで、私は、財務部に指示した本学の第3期中期目標期間の財政見通しを踏まえて、人件費削減計画を含めた財政改革方針の策定が必要であると判断しました。そして、冒頭に述べました

ように、3月の報告、8月の提案をさせていただきました。

現在、教育研究の国際化、学生定員の適正化のための組織再編、機能強化、急速な研究推進、社会連携など教職員の皆様にかかる負担の増加は著しいものです。しかし、このような大学への社会的な要請はさらに強くなると予想されます。このような状況で、教職員が創造的な教育研究活動を進めるためには、18年以上にわたる運営費交付金の削減に従って大学の教職員数を単に下げようとするような、旧来の大学の人事制度や財務経営の延長線上ではない新しい方策が必要です。

他方、過去12年間で運営費交付金は10%以上減少したにもかかわらず、教職員皆様の努力により本学の総収入額は、16%（運営費交付金以外の収入では55%）の増加を遂げました。運営費交付金以外の事業費は、目的が決められている特定事業費であるために単純に任期のない人件費に組み変えることはできませんが、より弾力的な人件費制度や人事制度によって、今回の運営費交付金の削減を乗り越え、さらなる削減に対しても立ち向かえる新しい国立大学法人北海道大学に生まれ変わることが重要です。

今回の経営状況の改善は、私たち教職員にとって非常に厳しいものです。特にこの2年間はそのようなものになります。しかし、ここで作り上げられる人事制度、大学経営、外部資金制度等の改革を通して第3期中期目標期間の終わりには、大学を取り巻く新たな環境に適應できる新しい北大型の国立大学法人の体制を作りあげ、私たちの次の世代に渡したいと思います。ぜひ、皆様の知恵と力をお貸しいただきたいと考えます。

10月に入って、2回の部局長等連絡会議で人事制度や経営改革とともに、大学の収入を飛躍的に増加させ、新しい北大の機能を強化するための外部資金調達ビジョン（例えば組織的な産学連携、大学機能の事業化、土地活用等）についても説明しました。本学の全教職員にも共有していただくために、これらの会議資料は学内向けにweb公開しています。また、この時報では関連記事を掲載しています。ご参照ください。

最後に、本学では、他大学に先駆けて、いち早く人件費・経営改革の検討に着手して将来に向けて準備を行っています。どうぞ、次世代の国立大学法人の新しい大学制度を作るという高い見地から、この人件費制度や大学経営の改革推進にご理解とご協力をいただきますよう、お願いいたします。

国立大学法人における予算の仕組みについて

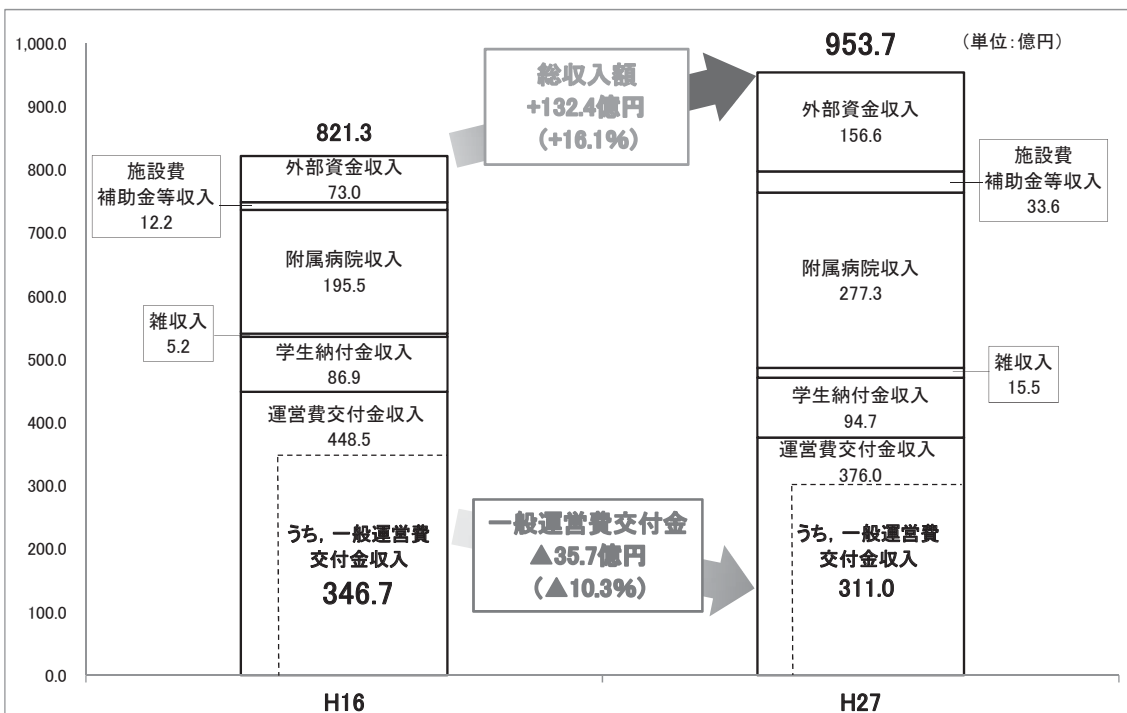
安田 和則（理事・副学長：企画・経営室担当）

すべての国立大学は平成16年4月に国立大学法人となり、予算制度が国立大学時代とは大きく変わりました。さらに昨年度で終了した第2期中期目標期間においてもその細部が変更されました。そして国立大学法人における第2期中期目標期間末にあたる昨年12月、政府は第3期中期目標期間においてはすべての国立大学法人に対する運営費交付金を第2期中期目標期間と同様に毎年削減することを発表し、国立大学法人の機能強化の方向性に応じた3つの区分により削減率を示しました。本学の削減率は毎年1.6%でした。現在、すべての国立大学法人がそれぞれの財務状況の中で、その対策に苦慮しているのは周知の事実です。この状況を正しく理解するためには、本学の全ての教職員が国立大学法人における予算の仕組みについて、正しい理解を持つ必要があります。ここでは、国立大学法人北海道大学の現在の予算の仕組みについて概説します。

大学の運営にまず必要なものは収入です（図1）。収入には国から予算措置される運営費交付金収入、授業料などの学生納付金収入、施設使用料などの雑収入、診療報酬などの附属病院収入、特定の目的等を達成するための施設費補助金等収入、外部資金収入から成り立っています。平成27年度の本学の総収入は、平成16年度と比較して+132.4億円（+16.1%）増加しました。これは主として自助努力による附属病院収入、外部資金収入、学生納付金収入、及び雑収入の増加によるものです。しかしその一方で、国からの運営費交付金収入は減少しました。特に大学運営の根幹となる一般運営費交付金収入は、国立大学法人化以降、文部科学省が定める国立大学法人運営費交付金の算定ルールにより、毎年度減額され続けており、平成16年度と比較して平成27年度では▲35.7億円（▲10.3%）を削減されました。第3期中期目標期間の算定ルールでは、これがさらに毎年度▲約4.4億円（▲1.6%）が減額されます。

図 1

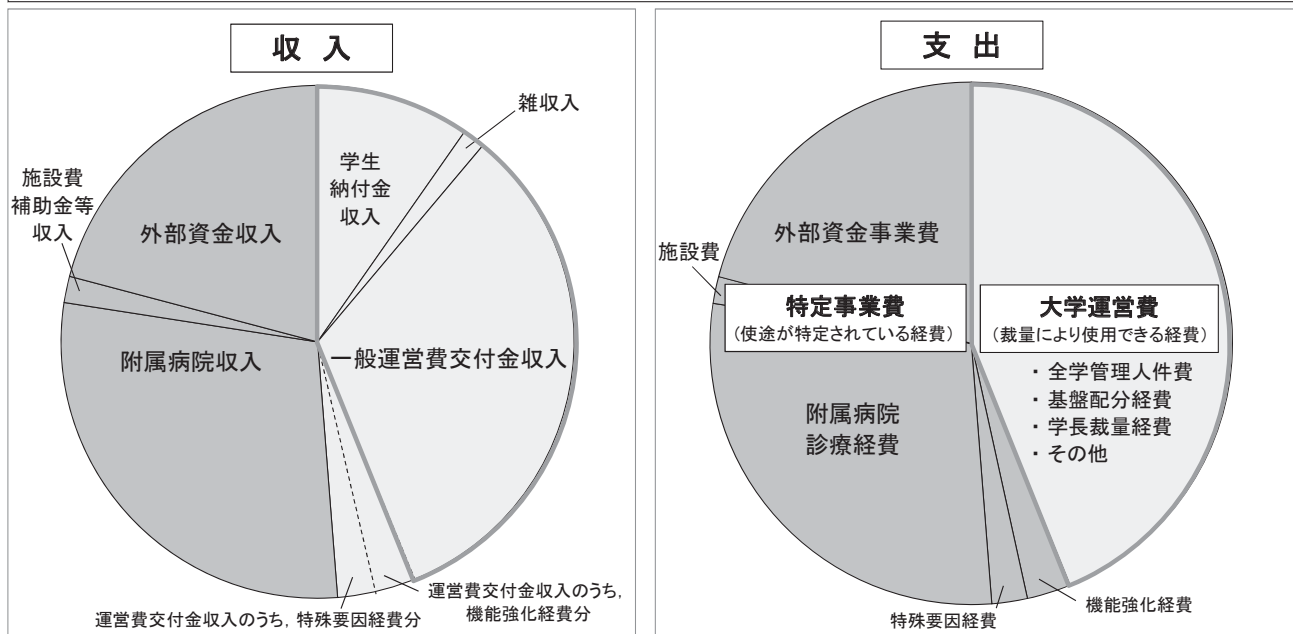
※総収入額は平成16年度と平成27年度を比較して+132.4億円(+16.1%)増
 一般運営費交付金収入は、平成16年度と平成27年度を比較して▲35.7億円(▲10.3%)減



運営費交付金収入は、使途が特定されておらず大学の裁量で使用できる一般運営費交付金と、使途が特定される機能強化経費・特殊要因経費から構成されます（図2左）。一方、支出は特定の使途が定められていてその使途以外に使用することができない特定事業費と、大学が裁量により使用できる大学運営費に大別できます（図2右）。全学管理人件費、基盤配分経費、学長裁量経費などは大学運営費から支出されます。特に全学管理人件費は大学運営費の約7割を占めていますが、これを特定事業費から支出することは許されておらず、例えば運営費交付金であっても機能強化経費・特殊要因経費から支出することはできません。特定事業費が使われる主な使途を表にまとめています。

図 2

※法人化以降の大学運営の財源は、国から予算措置される運営費交付金収入、授業料などの学生納付金収入、施設使用料などの雑収入と、特定の目的を達成するために使用される附属病院収入、施設費補助金等収入、外部資金収入から構成
 ※大学運営の根幹となる運営費交付金収入は、機能強化促進係数（第3期算定ルール）により毎年▲1.6%削減
 ※運営費交付金収入に内包される機能強化経費・特殊要因経費は、大学の機能強化に資する特定の事業や退職手当等に使途が特定
 ※大学の裁量により使用できる財源(大学運営費)は、機能強化経費と特殊要因経費を除く運営費交付金収入、学生納付金収入、雑収入
 ※支出については、特定事業費と大学運営費に区分され、そのうち特定事業費は使途が特定されており、他の目的には使用不可(※詳細は表のとおり)



※運営費交付金収入は、一般運営費交付金、機能強化経費、特殊要因経費に区分される

表

特定事業費（使途が特定されている財源）

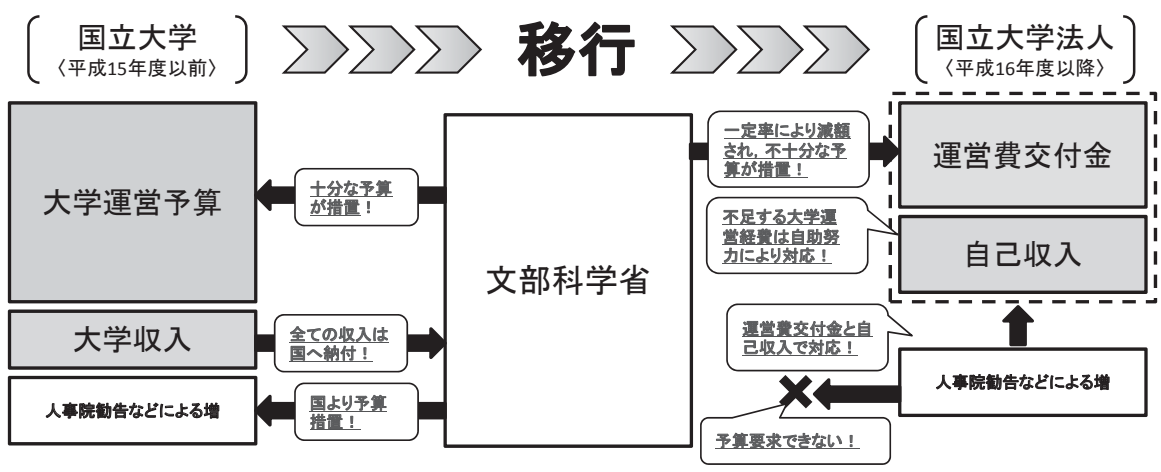
特定事業費については、使途が特定されており、他の目的には使用できない。

財源	使途
運営費交付金のうち、機能強化経費	大学の機能強化に資する特定の事業 (例：GI-CoREによる世界トップレベルの研究、全国共同利用・共同研究拠点の取組など)
運営費交付金のうち、特殊要因経費	退職手当、建物新設設備費、移転費 など
附属病院収入	病院運営に資する経費（病院は平成18年度から病院トータル運用を導入し、診療収入等の自己収入により運営を行っている。）
施設費補助金等収入	特定の施設整備等に資する経費
外部資金収入	寄附金、受託研究、共同研究、受託事業、補助金（COE, GCOE, スーパーグローバル大学創成支援事業等）の目的に合致した経費

最後に、このような国立大学法人における現行の予算制度が、平成15年度以前の国立大学時代の制度と異なる主な変更点を図3にまとめています。国立大学法人化以前は大学内の全ての収入は国庫へ納付することになっていた一方で、国からの大学運営に必要な予算は、今から見れば十分に措置されていました。さらに、人事院勧告による給与のベースアップなどに伴う予算不足額は、国から予算措置がなされておりました。しかし、国立大学法人化以降は、国立大学法人運営費交付金が国から予算措置されるものの大学運営には十分ではなく、大学運営に必要な予算不足額は自助努力による自己収入で対応するように求められています。加えて人事院勧告を踏まえての給与のベースアップなどに伴う支出について、国から予算措置されることもなくなりました。

図 3

- 平成15年度以前の国立大学の予算制度では、
国立大学の全ての収入は国へ納付！
国より大学運営に十分な予算が措置！
 人事院勧告、法定福利費などによる増は、国より予算が措置！
- 平成16年度以降の国立大学法人の予算制度では、
国より予算措置される運営費交付金のみでの大学運営は不可（毎年度一定率により減額）。
運営費交付金で不足する分は、自助努力ですべて対応！
 人事院勧告、法定福利費などによる増は、運営費交付金と自己収入で対応！



このような状況において、今後はこれまで以上に自己収入の増加が必要です。その主たる部分は民間資金の導入であり、それについては既に様々な制度改革を行ってきました。その成果の一部は、図1において外部資金が増加していることに表れています。しかし、更なる増収が必要なことは言を待ちません。増加した自己収入の全てを単純に全学管理人員費等に使えないという制約が存在するのは事実です。しかし制限の範囲において、今よりも柔軟にそれが可能になる制度を作りたいと考えています。一方、このような状況の中では、上述の努力を行っても、収入の不足が起きます。その不足分はあらゆる工夫を行って支出を削減することを考えなくてはなりません。

■全学ニュース

北海道大学ホームカミングデー2016の開催

—第5回ホームカミングデーを終えて—

広報室総長補佐 西口 規彦

9月24日（土）、「Be ambitious again!」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー2016」を開催しました。気持ちの良い秋晴れの中、多くの同窓生が札幌キャンパスに集い、盛況の内に幕を閉じました。

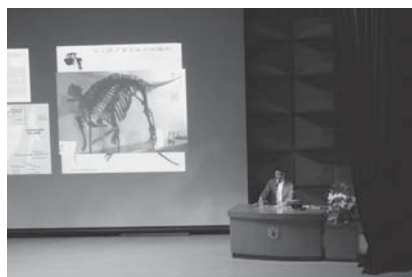
同窓生を迎えるにあたり、全学行事と部局・同窓会が主催する行事を企画しました。全学行事としては、クラーク会館講堂を会場に「歓迎式典・記念講演会」を開催しました。講演会に続いて、現役学生による歓迎のステージ、恵迪寮同窓会の有志による寮歌斉唱が行われ、様々な世代の同窓生が一堂に会し、同窓生同士のさらなる繋がりを期待できる会となりました。

全学行事の終了後には、本学、校友会エルム及びほっかいどう同窓会が共催のランチパーティで交流を深め、学生時代を懐かしみながら各学部等へ足を運ぶ同窓生が多く見

られました。

多くの部局や同窓会が23日（金）から24日（土）にかけて、ホームカミングデー開催に合わせて講演会や研究室見学会、懇親会、同窓会総会などを開催し、まさに大学全体の同窓会となりました。各部局ではそれぞれ、現役学生と同窓生、旧教職員との交流を図る企画を実施したり、在学生の家族が参加する企画を行ったりと、様々な形の交流の場が広がりました。

次回、第6回のホームカミングデーは来年、平成29年9月30日（土）に予定しています。来年も各部局・同窓会等のご協力を得て、同窓生の皆様に喜んでいただけるイベントにしていきたいと考えています。再び多くの同窓生が集うことを願っております。



当日の様子

全学行事

総務企画部広報課

歓迎式典・記念講演会

歓迎式典・記念講演会

9月24日(土) 10:00~11:45 クラーク会館講堂 参加者約270名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部卒業生である北海道放送株式会社(HBC)の船越ゆかりさんが務め、最初に、山口佳三総長が「進化する北海道大学」と題して本学の近況を報告し、「同窓生の皆様には本学の強力なサポーターになっていただきたい」とのメッセージを伝えました。次に、石山 喬北海道大学校友会エルム会長が歓迎の挨拶として、国立大学を取り巻く環境とともに、校友会エルムの果たす役割や意義について話されました。

続いて、恐竜研究で世界を牽引する総合博物館の小林快次准教授が「恐竜研究最前線 北海道大学が恐竜研究で大活躍!」と題して講演を行い、わかりやすく、ユーモアを交えながら研究内容を説明しました。

そして、歓迎のステージでは、パイプオルガン研究会の辻 ゆりさんが、荘厳な曲調から軽やかで楽しい曲まで4曲を披露し、会場に素敵な音色を響かせてくれました。

ステージの締めくくりは、「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。同窓生の皆様には本学の“今”を体感していただけたことと思います。



交響楽団による演奏



本学の近況を報告する山口総長



歓迎の挨拶を述べる石山会長



講演する小林准教授



パイプオルガン演奏者の辻さん



恵迪寮同窓会有志の皆様



「都ぞ弥生」斉唱で参加者が一体となった会場

部局・同窓会主催行事

文学研究科・文学部，教育学院・教育学研究院・教育学部，法学研究科・法学部，経済学研究科・経済学部

公開シンポジウム・同窓会総会・同窓会合同懇親会

9月24日（土）14:00～19:00 人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）103室等 参加者107名

文学部・教育学部・法学部・経済学部の4部局による共同開催として、「地域を創造する人育て～産業・生活・学びを支える担い手をめぐって～」と題し、人口減少が進展する地域（北海道）を活性化させるために必要な「担い手」について、産業、生活、学びの3つのアプローチから3人のシンポジストに提言をいただき、地域を創造する担い手を育てるのに何が必要かについて意見交換を行い、今後の展望の考察を行いました。

冒頭、山口佳三総長の挨拶後、小内

透教育学部長の司会により、前半部門は3人のシンポジスト（北海道銀行頭取 笹原晶博氏、コープさっぽろ理事長 大見英明氏、元北翔大学学長、札幌遠友塾自主夜間中学代表 遠藤知恵子氏）による提言がなされ、後半部門は教育学部同窓会長である竹田正直名誉教授の総合司会で、参加したシンポジストを交えて討論を行いました。参加者からも質問等があり、活発なパネルディスカッションが展開されました。

地域が縮小していく問題は、北海道

が直面する喫緊の課題と考えられ、本シンポジウムには同窓生に加えて一般市民など約110名が訪れ、充実したシンポジウムは成功裡に終了しました。

公開講演会終了後は、各学部同窓会による総会、次いで、文学部・教育学部・法学部・経済学部同窓会による合同懇親会が行われました。懇親会には秋元克広札幌市長（法学部同窓生）をはじめとして多くの同窓生が出席し、和やかな歓談のひと時を過ごし、学部を超えての交流を深め、盛会のうちに終了しました。



山口総長の挨拶



パネルディスカッション



シンポジウムの様子

医学研究科・医学部

北海道大学医学部フラテ祭2016

9月24日（土）13:30～19:00 医学部学生会館「フラテ」 参加者127名

医学部では、「北海道大学医学部フラテ祭2016」を開催しました。

第1部の施設・キャンパスツアーでは、教員がツアーコンダクターとなり、参加者を案内しました。今年度は細胞生理学分野、法医学解剖室、遺伝子病制御研究所、生体試料管理室、陽子線治療センターの5箇所が見学場所となり、参加者は大変興味深そうに説明に耳を傾けていました。また、キャンパスツアーでは名所の解説を聞きながらバスで大学構内を巡っていただきました。ポプラ並木やクラーク像では途中下車をして楽しんでいただきました。

第2部の講演会では、笠原正典医学部長、寶金清博北海道大学病院長、廣重 力名誉教授（元本学総長）が講演を行いました。特に廣重名誉教授の「大学ガバナンスの20年」と題した特

別講演は、参加者より「大変感銘を受けました」とのご感想をいただくなど、大変好評でした。

講演会終了後は第12回目となる音羽博次奨学基金授与式が行われ、笠原医



医学部施設ツアーの様子



キャンパスツアーの様子

学部長より11名の学生に奨学金が授与されました。

第3部の交歓会は、北海道大学男声合唱団と医学部生によるピアノ伴奏にて「都ぞ弥生」「学友会歌」が披露された後、浅香正博同窓会長のご挨拶・乾杯により開宴されました。北海道大学交響楽団の弦楽四重奏の演奏の中、現役学生・学生父母・同窓生・教員が一同に会し、和やかな歓談のひと時を過ごしながらか交流を深めることができました。交歓会の半ばには医学部公認

団体による活動紹介が行われ、最後に参加者と北海道大学男声合唱団が「都

ぞ弥生」を合唱し、盛会の中フラテ祭を終えることができました。



廣重名誉教授の講演



交歓会の様子

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科

保健科学研究院ホームカミングデー

9月24日(土) 13:30~16:10 保健科学研究院大会議室(C棟6階) 参加者30名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では、保健科学研究院ホームカミングデー(分野紹介・講演会)と題し、保健科学研究院の各分野から最近の教育研究の諸活動などについての近況報告、及び卒業生の方々を講師としてお迎えし、これまでの歩み、現在の活動状況などをお話していただきました。

齋藤 健研究院長からの開催の挨拶に始まり、分野紹介では、各分野から

分野の各種構成等及び最近の教育研究について紹介し、講演会では、久保雅義氏(新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究所・教授)に、「チョイス」と題し、本学医学部保健学科の前身である医療技術短期大学部を含め、6つの大学を経て7つ目の大学で教職につくまでの「選択」、特にアメリカにおける幾つかの大学での勉学及び研究の経験についてお話していただきました。次に、澁谷 齊北海道大学病院医療技

術部長に、「“臨床検査室は宝の山”をどのようにとらえ実践すべきか」と題し、臨床検査技師として、自身が臨床検査に埋もれている何かを見出すことの感動等を含め、特に細菌検査室に勤務していた時期の研究体験について話がありました。

講演後には、質疑応答も行われ好評のうちに終了しました。



開会の挨拶をする齋藤研究院長



分野紹介の様子



久保氏による講演



澁谷北海道大学病院医療技術部長による講演

歯学研究科・歯学部

北大の歯学教育，研究，臨床の現状－創立50周年を控えて－

9月24日（日）13:30～15:00 歯学研究科A棟2階歯学部講堂 参加者20名

歯学研究科・歯学部では、「北大の歯学教育，研究，臨床の現状－創立50周年を控えて－」と題し，本研究科所属の教員による最新の研究及び臨床についての講演会を企画しました。

歯学部講堂で開催された講演会では，はじめに横山敦郎研究科長・学部

長が歓迎の挨拶を述べた後，来年には歯学部創立50周年を迎えることを含め，歯学研究科及び歯学部の現況報告を行いました。

引き続き，歯科医療及び研究の最新トピックスについて，本研究科所属の各分野の教員が報告を行いました。参

加者はメモをとるなどしながら，各教員の説明に熱心に聞き入っていました。

今年からは，在校生父母も対象として案内し，参加者からは教育内容等について質問がなされるなど盛会のうちに終了しました。



横山研究科長による挨拶



各分野からの研究及び臨床報告の様子

獣医学研究科・獣医学部

獣医学部同窓会平成28年度通常総会，新評議員会・新理事会，フォーラム「獣医学部とアフリカの関わり～歴史と将来～」，交流会，懇親会

9月24日（土）13:00～18:45 獣医学部講義棟会議室・講堂 参加者65名

昨年度と同様に，獣医学部同窓会通常総会及びフォーラム（交流会）を開催しました。

獣医学部同窓会平成28年度通常総会では，45名の同窓生にご参加いただき，平成27年度事業報告・決算の承認や平成28年度事業計画・収支予算案など計4号の議案について審議しました。その後，65名の同窓生及び学生が参加して開催したフォーラム（交流会）では，「獣医学部とアフリカの関わり～歴史と将来～」と題して，約30年前に開始されたODA（政府開発援助，無償資金協力）及びJICAザンビア大学獣医学部技術協力プロジェクトへの中心的関与を通じた本学獣医学部

とザンビア大学獣医学部との関係を，その舞台裏から発展的に進歩した現在の状況，そして今後について議論しました。両大学間の双方向の教育協力及びパートナーシップ構築へと進んだ経緯を振り返り，それをもとに将来への提言をまとめました。話題提供として，本学部の名誉教授，現役教授，研究員，学生だけでなく，工学研究院の副研究院長にも本学全体へと拡大したザンビア大学との研究協力の一部が紹介されました。その後開催された懇親会の場においても，フォーラムの熱い情報のやり取りは活発に行われました。

獣医学研究科・獣医学部のいわば代

名詞の一つになったザンビア大学との関係について，世代間の情報交換が進みづらい面もありましたが，今回のフォーラムを通してそれを深めることができ，大変意義深い，大盛況のホームカミングデーとなりました。



獣医学部同窓会通常総会及びフォーラム参加者の集合写真

情報科学研究科

北楡会・北海道大学情報系交流会

9月23日(金) 13:30~18:00 情報科学研究科講義室・ロビー 参加者105名

工学部情報エレクトロニクス学科、情報科学研究科及び旧電気、電子、情報、生体系の各学科の同窓会である北楡会との交流会を開催しました。

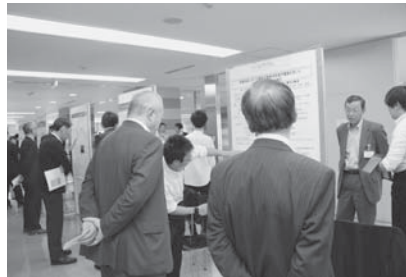
開会挨拶に続いて、21研究室の大学院生が、所属する研究室の最近の研究内容について、北楡会会員や教員にわかりやすく説明するポスター発表が行われました。ポスターの前では、予定された時間の終了間際まで、発表内容について活発に議論する姿が見られました。

引き続き、講演会が行われ、経済産業省北海道経済産業局地域経済部長の寒川卓知氏から「地域経済の発展に関わる立場からみた大学の地域貢献・産学官連携への期待」、株式会社日立製作所CSR・環境戦略本部担当本部長兼企画部部長の高橋和範氏から「日立グループの経営企画と研究開発戦略」、本研究科情報理工学専攻の田中章教授から「色復元の数理モデル-褪せカラーフィルムからの色彩復元-」の3件の講演がありました。

その後行われたポスター表彰と意見交換会では、3件の発表が優秀ポスター賞に選ばれ、伊藤明男北楡会会長より賞状が手渡されました。また、ポスター発表について教員、学生と北楡会会員との意見交換を行い、出席した北楡会会員から、研究成果についてわかりやすく伝えるためのアドバイスをいただくなど、和やかな雰囲気の中、閉会となりました。



開会の挨拶



ポスター展示



田中教授の講演

水産科学院・水産科学研究院・水産学部、北水同窓会

水産学部卒業生のつどい～講演会～

9月24日(土) 14:00~16:00 学術交流会館第1会議室 参加者46名

水産学部では、本学部卒業生の西田清徳氏(大阪・海遊館館長)による「進化を続ける水族館～水族館の過去・現在・未来～」と題して講演会が行われる予定でしたが、ご本人の体調不良により、急遽、本学部の荒井克俊教授が講演を行うことになりました。

講演会に先立ち、安井肇学部長から函館キャンパスにおける施設整備の状況や教育研究活動の近況報告の後、横山清北水同窓会会長(北海道大学

校友会エルム理事)から、学生当時の思い出を交えながらのご挨拶がありました。続いて、講演会では、荒井教授による「なぜ北大には水産学部があるのか?!～札幌農学校における水産学事始めから、北海道大学の持続可能性水産科学へ向けて～」と題した講演が行われ、水産学部における過去の出来事や函館にキャンパスを構えるようになった経緯などの説明があり、大変興味深い内容の講演となりました。更に、

オープンキャンパス説明会の際に使用した資料を用いて、現在の水産学部の活動状況などについて説明がありました。会場には、同窓生、教職員、学生あわせて50名ほどが出席し、講演終了後は、卒業生や学生が安井学部長や横山北水同窓会会長と懇談するなど、和やかな雰囲気の中、盛況のうちに閉会となりました。



安井学部長の挨拶



横山北水同窓会会長の挨拶



講演会の様子

環境科学院・地球環境科学研究院

松野環境科学賞授賞式，修了生講演会，コース・研究室紹介パネル展示，懇親会

9月23日（金）14:00～19:30 環境科学院，北部食堂 参加者65名

環境科学院のホームカミングデーは松野環境科学賞の授賞式で始まりました。各専攻より選ばれた4名の受賞者が、拍手の中、賞を受け取り、受賞後のスピーチでは、それぞれが研究への想い、お世話になった指導教員や協力してくれた仲間への感謝を述べました。

続いて行われた講演会では、先輩の経験や、実社会の状況をこれから社会

に出る学生に役立ててもらえるよう、5名の修了生をお招きし、講演をしていただきました。4つの専攻がある本学院修了生の活動は、化学製品開発、再生エネルギー普及、気象情報提供、昆虫研究と多岐にわたり、各方面で活躍されている姿、また、環境科学院での経験が現在の仕事にどのように活かされているかなど当事者でなければ分

かり得ない内容を、楽しく分かりやすく講演していただきました。

懇親会は場所を移し、北部食堂において開催しました。参加者は、学生、教員の他、松野環境科学賞受賞者、修了生講演会の講演者も集い、受賞内容や卒業生の近況などについて終始楽しい懇談が行われ、賑やかな懇親会となりました。



松野環境科学賞授賞式



修了生講演会



懇親会の様子

理学院・理学研究院・理学部，生命科学院・先端生命科学研究院，理学部同窓会

理学部ホームカミングデー

9月24日（土）13:30～18:00 理学部2号館玄関ロビー他 参加者74名

5回目となる理学部ホームカミングデーは、今年も理学部同窓会の総会をこの日にあわせて開催しました。

最初に、2号館玄関ロビーを会場に、理学部の現況報告を行いました。石森浩一郎理学研究院長・理学部長、泉屋周一同窓会理事長の歓迎の挨拶の後、石森研究院長が近年の理学部関連における研究成果の説明や、学部・大学院が関係する教育プログラム等に関して報告しました。

次いで、同窓会からの奨学金により海外の国際会議等において研究発表を

行った大学院生3名が、旅行中のエピソードを交えた発表を行い、同窓生の方々は聞き入っていました。

その後、理学部同窓会通常総会を本館大会議室で開催し、議案に対する審議を行いました。例年どおり多くの同窓生に出席いただき、同窓会の運営に関して熱心な質問や意見交換がなされました。

総会終了後、教職員と同窓生はファカルティハウス「エンレイソウ」に移動し、理学部&同窓会交流会に参加しました。石森研究院長の挨拶の後、出

村 誠先端生命科学研究院長の発声による乾杯で交流会が幕開けしました。

立食形式による1時間半ほどの会でしたが、和やかな雰囲気が進み、歓談の間には現職教員が各学科の近況を報告し、また同窓生の出席者からは理学部を応援するお言葉をいただきました。

泉屋同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯の後、同窓生は出身学科の教員の案内で理学部建物に戻り、研究室見学、現役学生・教員との懇談会に参加して交流を深めていました。



石森理学研究院長の近況報告



同窓会奨学生の発表



同窓会総会の様子

市民公開・農学特別講演会

9月23日（金）13:30～15:40 農学部大講堂 参加者105名

農学院・農学研究院・農学部は、札幌農林学会・札幌農学同窓会とともに、同窓生、市民、教職員、学生を対象とした市民公開・農学特別講演会を開催しました。本特別講演会は、明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会を継承・発展させたもので、100年以上の歴史があります。平成9年からは市民公開・農学特別講演会と名称を改め、広く一般市民の方々に公開しています。本年のテーマは昨年に引き続き「農と食が創る持続的な社会」として開催しました。

横田 篤研究院長による挨拶の後、農学研究院の増田 清特任教授より

「アスパラガスーその雌雄性と栽培」と題して講演がありました。初夏の北海道の野菜の代表格アスパラガスには雌株・雄株があり、栽培管理上の理由で日常に食するのは雄株であること、そのため必要となる雌雄判別法や雄株用種子の迅速作出法についての技術の進歩・開発など、身近な作物とその栽培を支える技術について、自身の研究も含めて興味深い話がありました。

続いて農学研究院の原 博教授より「からだによい糖の話しー食物繊維、オリゴ糖、そしてメガロ糖へ」と題して講演がありました。「糖質ゼロ」をうたう菓子や飲料が出回る昨今です

が、食物繊維や新たに開発された糖質が、糖尿病・肥満症やコレステロールの低減、ミネラル吸収と骨の強化等の機能性を持つことについて、専門の栄養学分野の研究成果に基づき紹介され、改めて糖質の重要性に気づくことのできる講演でした。

会場には同窓生19名や一般市民の方55名にもお越しいただき、大講堂の多くを埋める105名の参加となりました。両先生提供の話題・内容が大変興味深く、話に刺激されて、時間内に答えられない程の多数の質問もあがる等、大変盛会となりました。



増田特任教授



原教授



講演に聞き入る参加者

国際広報メディア・観光学院、メディア・コミュニケーション研究院

ホームカミングデー@IMCTS2016（修了生meet在学生会2016）

9月24日（土）13:00～19:30 メディア・コミュニケーション研究院メディア棟 参加者52名

国際広報メディア・観光学院のホームカミングデーは、今年度からリニューアルした「国際広報メディア・観光学院PRビデオ」の放映で開幕しました。

修了生講演会第1部では、国際広報メディア研究科第5期の佐藤 充氏（ジェイ・ウォルター・トンプソン・ジャパン合同会社）より「IMCTSで学ぶことは、ビジネスにどう“効く”のか」と題して、第2部では、観光創造専攻第1期の富岡耕太氏（東日本旅客鉄道株式会社・仙台駅助役）より「鉄道員を支える観光創造への2年間」と

題して講演いただきました。

修了生講演会に引き続き行われた在校生ワークショップは、「ポケモンGOの衝撃～AR時代における新たな

ツーリズムの可能性と、それによってもたらされる新たな場所性～」という今話題のゲームアプリとツーリズムの関係をテーマとして設定し、国際広報



佐藤氏による講演



富岡氏による講演

メディア専攻及び観光創造専攻の学生が、林 恒立助教のサポートを受けて発表原稿をまとめてプレゼンテーションを行い、ARツールが今後のツーリズムにどのような影響を及ぼすかについて、フロアとの活発な質疑応答が行われました。

同窓会総会では、札幌、東京、北京における活発な活動について報告が行われ、今後の同窓会の組織化をさらに高めていく方策について話し合われました。続く懇親会は修了生、教員、在学生や本学院のOB教員で賑わい、盛会のうちに終了しました。



国際広報メディア・観光学院同窓会懇親会

工学院・工学研究院・工学部

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2016, 北工会サークル展示, 保護者向けの講演会及び個別面談, 同窓生向け講演会「知恵と多様性の翼で羽ばたく工学」, 保護者・OB・OGとの全体懇親会

北海道大学工学系イノベーションフォーラム2016

9月23日(金) 13:30~17:00 情報科学研究科2階ロビー・A21教室 参加者87名

本フォーラムは、工学研究院における地域連携や社会連携に向けた研究を支援することを目的とした工学系連携推進部と、工学部情報エレクトロニクス学科及び情報科学研究科の同窓会である北楡会の共催事業として実施しました。

開会の挨拶の後、ポスター発表の部として、2階ロビーで工学研究院及び情報科学研究科の最近の代表的研究成果について、37課題のポスター発表を

実施しました。

引き続き、講演の部としてイノベーションに関連した講演を情報科学研究科A21教室で3題実施しました。

経済産業省北海道経済産業局の寒川卓知地域経済部長から「地域経済の発展に関わる立場からみた大学の地域貢献・産学官連携への期待」、株式会社日立製作所の高橋和範CSR・環境戦略本部担当本部長兼企画部部長から「日立グループの経営計画と研究開発戦

略」、情報科学研究科の田中 章教授から「色復元の数理モデル～褪せカラーフィルムからの色彩復元～」について講演が行われ、参加者は熱心に聞き入っていました。

なお、ポスター発表のうち22課題については、工学系連携推進部ホームページで工学系研究者シーズ集Vol.14として公開していますので、ぜひご覧ください。

◆<http://labs.eng.hokudai.ac.jp/office/elo/jp/seeds/>



ポスター発表



講演する寒川氏



講演する高橋氏

北工会サークル展示

9月24日(土) 9:00~17:00 工学部正面玄関ホール

工学部正面玄関において、北工会(工学部の教職員・学生等の親睦団体)の公認サークルによる作品(書道、写真、生け花)を展示しました。ホームカミングデー来場者以外に、在学生や外部からの来訪者の方々も、足を止めて作品に見入っていました。



展示の様子

保護者向けの講演会及び個別面談

9月24日(土) 13:30~16:00 工学部オープンホール 参加者197名

工学部教育・キャリア企画室では、昨年に引き続き、保護者向けの企画として講演会を、希望者には各コースの教員による個別面談を企画しました。

講演会では、名和豊春工学部長、五十嵐敏文工学研究院副研究院長、藤村奈央助教から、工学部の教育方針、就職サポート、大学院教育、グローバル化など、それぞれの立場による工学部

としての取り組みや強み等について講演が行われました。

また講演後には、個別面談を希望された65組の保護者の方々が、学生が所属している各コースの担当教員とそれぞれの会場に分かれて、家庭では見られない学生の日頃の生活や就職活動などについて熱心に担当教員に質問されていました。



個別面談の様子

同窓生向け講演会「知恵と多様性の翼で羽ばたく工学」

9月24日(土) 14:00~16:00 フロンティア応用科学研究棟鈴木章ホール(レクチャーホール) 参加者32名

工学部教育・キャリア企画室では、「知恵と多様性の翼で羽ばたく工学」を全体テーマに、同窓生向けの講演会を行いました。

名和豊春工学部長からは「工学部92年の歩みとその展望」と題し、工学部の創設から現在までの教育・研究状況

と、今進められている新たな将来構想についての講演が行われました。引き続き、岩井一彦教授、小林幸徳工学研究院副研究院長、田村亨教授から、それぞれの所属される応用理工系学科、機械知能工学科、環境社会工学科の変遷と近況に関する講演が行われま

した。

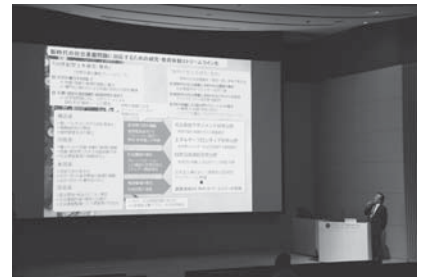
また、会場となった鈴木章ホールは、ホール入口付近のホワイエに、ノーベル化学賞を受賞された鈴木章名誉教授の研究ノート等の展示があり、参加された同窓生は講演の合間に興味深く見ていました。



講演する名和工学部長



講演する岩井教授



講演する田村教授

保護者・OB・OGとの全体懇親会

9月24日(土) 16:00~17:00 工学部食堂 参加者108名

工学部食堂において、工学部のOB・OGである同窓生や保護者の方々を多数お迎えし、全体懇親会を開催しました。

昨年度から同窓生に加え、保護者の方も参加される懇親会となり、今年度は70名近い保護者の方々を含む、総勢

100名ほどの参加がありました。

懇親会の冒頭では、岸浪建史工学部同窓会理事長からのご挨拶をいただき、引き続き、名和豊春工学部長からの挨拶の後、歓談に移りました。

参加された保護者の方々は、現役教員や同窓生の方々と熱心にお話をされ

ており、短い時間ではありましたが、和やかな雰囲気の中で交流されていました。

最後は小林幸徳工学研究院副研究院長からの閉会の挨拶により、盛会のうちに終了しました。



挨拶する岸浪工学部同窓会理事長



挨拶する名和工学部長



歓談の様子

薬学研究院・薬学部

北海道大学薬学部の現状と第19回北海道大学薬学部生涯教育特別講座 秋季講演会

9月24日(土) 15:00~19:30 薬学部臨床講義室 参加者143名

薬学部の現状報告及び生涯教育特別講座・秋季講演会を開催しました。

はじめの現状報告では、南 雅文薬学部長から薬学部(薬学研究院)の研究組織、教育研究への取り組み、教員構成、教員の異動等について紹介がありました。

薬学部生涯教育特別講座は、薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として開催されており、本秋季講演会には薬局や病院など

の薬剤師の方々をはじめ、薬学部学生や教員、同窓生等143名の参加がありました。

FMC東京クリニック 認定遺伝カウンセラーの田村智英子先生による「ゲノム時代の遺伝子検査を考える～家庭でできる検査から医療に使われる検査まで、賢く利用するには～」と題する講演では、遺伝子疾患とその検査、データ解析まで身近な実例を交えた解説がありました。

続いて、北海道大学病院臨床研究開発センターの佐藤典宏教授の「『人を

対象とする医学系研究に関する倫理指針』に適合した臨床研究の進め方」と題する講演では、臨床研究の判断基準や研究の分類、手順についての具体的な提示がありました。

会場からは様々な質問が寄せられ、活発な議論も行われ、参加者からは「遺伝子検査への理解が深まった」「臨床研究は自分に直結する内容で、興味を持って聞くことができた」など多くの意見をいただきました。



講演する田村先生



講演する佐藤教授



会場の様子

北方生物圏フィールド科学センター

「生物生産研究農場」ミニツアー、植物園の見学

9月24日(土) ミニツアー: 14:30~15:00, 15:30~16:00 植物園: 9:00~16:00 生物生産研究農場、植物園 参加者25名

北方生物圏フィールド科学センターでは、耕地圏ステーション生物生産研究農場のミニツアー及び植物園の見学を実施しました。

「生物生産研究農場」ミニツアーに

おいては、3名の参加者があり、屋上から農場の景色を眺めた後、放牧地、牛舎及びスキ試験圃場で山田敏彦農場長が説明を行いました。参加者からは、身近に作物や家畜に触れられ、好

評でした。

また、植物園においては、幅広い年代にわたる卒業生等22名が来園し、温室・博物館・宮部金吾記念館など園内を懐かしそうに見学していました。



「生物生産研究農場」ミニツアー



「植物園の見学」の来園者

附属図書館

企画展示：「所蔵写真と地図で辿る明治の北海道」パネル展示

9月24日（土）9:00～19:00 附属図書館本館玄関ロビー 参加者10名

附属図書館では、本館内の自由見学と、玄関ロビーで開催中の「所蔵写真と地図で辿る明治の北海道」（8月1日～11月30日開催）のパネル展示をご覧いただきました。

開拓使は、政府への報告に当時最先端技術だった写真を一つの手段としており、これらの写真を含め、図書、地図などを北方文化研究室が精力的に収

集していました。現在、この資料は、附属図書館が北方資料コレクションとして所蔵しています。

今回のパネル展示では、北方資料コレクションから、開拓使に納められた写真、添付された文書やその時代の地図などから、札幌・函館・小樽の3地域について地域ごとにパネルを作成し、紹介しました。

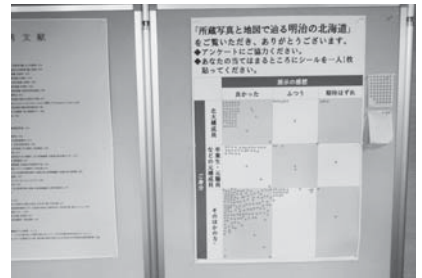
なお、パネル展示自体は8月1日（月）から開催しており、既に多くの同窓生や元職員、市民の方々にご覧いただいております。ご覧いただいた後、感想をシールで貼っていただくアンケートを実施しましたが、多くの方々には良かったとの評価をいただきました。



玄関ロビーパネル展示



開拓使仮庁舎屋上より撮影した札幌市内のパノラマ写真



見学者アンケート

総合博物館

企画展示「ランの王国」及び常設展示の展示解説

9月24日（土）10:00～17:00 総合博物館 参加者70名

7月26日（火）にリニューアルオープンした総合博物館では、企画展担当教員と本学学生による展示解説が行われました。

「ランの王国」展では、企画担当した高橋英樹教授が午後2回、展示制作のエピソードをまじえながら各展示物の説明を行いました。卒業生や様々な年代の参加者が質問や感想をお寄せ下さり、展示室で和やかな交流の場が生まれました。

また、総合博物館で活動する北大

ミュージアムクラブMouseionに所属する学生3名が、次の内容で午前と午後計6回、展示解説を行いました。

「シロブチヘビゲングをめぐって」（杉谷 紬・文学部2年）、「文学部らしくない？文学部の研究」（松山結衣子・文学部2年）、「北大昆虫研究の歴史と今」（伊藤優衣・文学部2年）。解説シナリオの作成、博物館教員らによるシナリオの監修、ビデオレッスンなどを通じたコミュニケーション方法の検討など、準備を重ねて

きた解説者達に、参加者の方々から大変励みになるお言葉を多くいただきました。また、ミュージアムクラブの他の学生達が解説をサポートしました。



高橋教授による企画展示解説



魚類の展示解説（杉谷さん）



文学部展示の解説（松山さん）



昆虫の展示解説（伊藤さん）

大学文書館

特別展示「初期の札幌農学校」、常設展示「北大生の群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新渡戸稲造と遠友夜学校」

9月24日(土)・25日(日) 9:30~16:30 大学文書館1階：沿革展示室、展示ホール、会議室、閲覧室 参加者50名

大学文書館では、特別展示「初期の札幌農学校」(会場：沿革展示室)と、常設展示「北大生の群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新渡戸稲造と遠友夜学校」(会場：展示ホール)を、9月24日(土)・25日(日)にわたり公開しました。

また、両日は、会議室と閲覧室を臨時に開放し、室内に飾り付けた扁額・

油彩画・表札などをご覧いただきました。会議室で公開した資料は、油彩画「北海道帝国大学全景」(1932年)、南鷹次郎墨蹟「山水紫明」(1932年)、油彩画「第二農場」(1913年、田邊至作)、扁額「北海道帝国大学博物館及植物園平面図」、クラーク博士像(石膏)です。閲覧室で公開した資料は、表札「北海道大学豫科」、旧制高校・

大学予科徽章コレクション(宍戸昌夫氏旧蔵)、「郵便資料でふりかえる札幌農学校」(高尾彰一氏旧蔵、切手展示用シート42枚)、墨蹟4幅(佐藤昌介揮毫1幅、南鷹次郎揮毫1幅、新渡戸稲造揮毫2幅)です。両日あわせて、50名の同窓生・元教職員等の皆様が見学されました。



展示ホールの公開



閲覧室の見学風景

学務部教育推進課(北海道地区国立大学連携教育機構)

国立大学教養教育コンソーシアム北海道の取組

9月24日(土) 9:00~16:00 クラーク会館、フロンティア応用科学研究棟2階ホワイエ 参加者290名

現在、本学をはじめとする道内の国立大学間で実施している教養教育連携実施事業(国立大学教養教育コンソーシアム北海道)の取組について、午前中はクラーク会館受付前で、午後はフロンティア応用科学研究棟2階ホワイエにおいて、パネル展示等により紹介を行いました。

本事業では、道内国立大学の教養教育の充実強化を目的として、道内7国

立大学で締結された単位互換協定に基づき、大学間をテレビ会議で接続した双方向遠隔授業を主体として、各大学の教養教育に係る授業科目がリアルタイムで配信されています。各大学から、昨年度は約210名、今年度前期は約170名が、本事業による授業科目を受講しました。

今回の紹介については、本事業の概要についてパネルを展示した他、本事業

や双方向遠隔授業の概要、本事業において開発されたデジタル教材を活用した反転授業の概要について、3種類のPRビデオをデジタルサイネージで上映するとともに、来場者にはリーフレットの配布を行い、道内国立大学で始まった新たな取組について周知しました。



クラーク会館でのパネル等の展示

学務部学生支援課

北海道大学写真部・北大カメラクラブOB合同展，北海道大学合唱団ストリートライブ

北海道大学写真部・北大カメラクラブOB合同展

9月24日（土）10:00～18:00 クラーク会館3階展示場 参加者50名

公認学生団体の写真部が，北大カメラクラブOBとの合同写真展を開催し，作品を披露しました。卒業生など訪れた方々は，部員それぞれが独自の視点で撮影した作品を興味深くご覧になっていました。



写真展の様子

北海道大学合唱団ストリートライブ

9月24日（土）11:55～12:25 クラーク会館正面玄関付近 参加者70名

公認学生団体の合唱団が，歓迎式典・記念講演会にいらっしゃった卒業生など皆様を，男声合唱でお迎えしました。「都ぞ弥生」を含む数曲の合唱に，多くの方が足を止めて歌声を楽しまれました。



ストリートライブの様子

北大キャンパスビジットプロジェクト

キャンパスツアー—現役北大生とめぐるキャンパス今昔—

9月24日（土）13:00～15:30 札幌キャンパス構内 参加者9名

全体行事の会場となったクラーク会館を出発し，参加者の出身学部に応じてコースを分けて札幌キャンパス構内を順次巡り，高等教育推進機構を最終到達地点としたツアーを実施し，9名の方に参加していただきました。

ツアー中は，スタッフである現役学生がコース中にある各学部の現在の様子などを紹介し，参加者から本学で学ばれていた当時の話を伺うという形で進行しました。

参加者からは本学で学ばれていた当時に思い出して懐かしむ声や挙がる一方で，構内の新しい建物への質問などがあり，スタッフの学生がそれに答えながら参加者の在学当時の様子について詳しく聞く場面があるなど，現役学生と同窓生の方が交流を深める貴重な機会となりました。

ツアー終了後には，参加者の方からは「建物，歴史等について初めて知ることがあり，非常に参考になった」

「昔とは変わったところがたくさんあった」等の感想が寄せられました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは，年に数回，一般市民向けのキャンパスツアーを行っており，今秋にもキャンパスツアーを実施する予定です。今回，ご参加いただいた方々から伺うことができた過去の様子なども参考にし，これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきたいと思っております。



現役学生スタッフによるガイドを真剣に聞き入る同窓生



キャンパスの今昔を語り合う様子



記念撮影

ほっかいどう同窓会

ホームカミングデーウエルカムランチパーティー

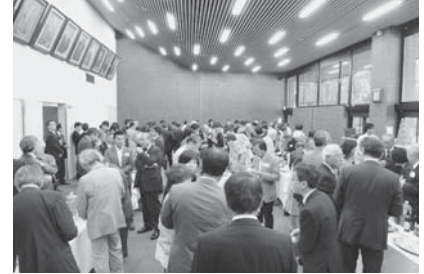
9月24日(土) 12:15~13:30 百年記念会館大会議室 参加者140名

ほっかいどう同窓会では、全学行事の歓迎式典・記念講演会に引き続いてランチパーティーを行いました。三上隆ほっかいどう同窓会会長の挨拶に続いて、山口佳三総長、石山 喬校友会エルム会長の挨拶の後、歓談に移りました。

会場は、大学関係者や卒業生140名で一杯になり、話が盛り上がり、予定していた時間はあっという間に過ぎてしまいました。



ランチパーティー風景



恵迪寮同窓会

文化講演会・大寮歌祭

9月24日(土) 14:00~20:30 クラーク会館大集会室、札幌アспенホテル 参加者120名

文化講演会は、北大・恵迪寮精神の継承の場として開催し、OBや一般市民ら100名近い参加がありました。今年、井上勝生名誉教授(元文学研究科教授)より「内村鑑三・有島武郎と石狩川・千歳アイヌ民族—札幌農学校の歴史を見なおす—」のテーマで講演がありました。井上先生は日本近代政治史専攻の歴史学者で、幕末維新の研究、明治日本と北海道の研究などで知られています。

講演では、青年期の内村鑑三や有島武郎と、アイヌ民族の関わりについて新たに発見された資料をもとに北海道の歴史風土の解説がありました。内村は札幌農学校(水産専攻)を卒業後、開拓使や後の札幌県で漁業調査・水産

学研究に従事し、鮭漁がなければアイヌは飢餓に陥ることを立証、千歳川・石狩川サケ漁実況調査復命書や千歳川鮭漁開業の義などで、鮭の保護とアイヌによる鮭漁の継続を提案しています。また、アイヌ共有財産の道庁管理をめぐる紛争や北海道旧土人保護法の歴史的役割について、アイヌと札幌農学校との関わりと同様、批判的な立場を取っています。一方、後に農地解放を行った有島は道内旅行でアイヌの窮状を目にしていたにも関わらず、なぜか文学で多くを語っていないなど興味深い解釈も述べられました。内村の青年期の行動・思想がうかがえる資料に接し、より深く北大精神を考え札幌農学校の歴史を見直す良いテーマでした。

その後、札幌アспенホテルに会場を移し、恵迪寮同窓会・大寮歌祭を開催しました。3年に一度札幌で行われる大寮歌祭には、来賓の三上 隆理事・副学長や石山 喬校友会エルム会長ほか、全国から100名近いOBをはじめ、恵迪寮生、友好関係にある小樽商科大学応援団有志らが出席しました。冒頭、全員で「都ぞ弥生」を斉唱し、鏡開き、乾杯の後、昭和2年度寮歌「蒼空高く翔けらんと」で寮歌高唱に入りました。現寮生たちによる平成寮歌も数曲披露され、最後の「別離の歌」(昭和6年度寮歌)まで20数曲の寮歌を熱唱し、3年後の再会を誓い合いました。



講演会の様子



現寮生による平成新時代の寮歌指導(大寮歌祭)



年代ごとに登壇し名寮歌を熱唱する参加者(大寮歌祭)

平成28年度北海道大学インターンシップを実施

本学学生を対象としたインターンシップを9月5日（月）～9日（金）の5日間（附属図書館は9月5日（月）～13日（火）の7日間、学務部キャリアセンターは9月5日（月）～16日（金）の10日間）の日程で実施しました。

本インターンシップは、特に近年、社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること、本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向

上に寄与し、併せて本学に対する理解を深めることを目的として実施しています。

今年度は8部局で、10名の学生を受け入れました。（別表参照）

初日は実習生全員を対象として、インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各実施部署担当者から「組織運営」「財務」「学務」「施設」「国際」「図書」の6つのテーマに基づき、本学の概要が説明されました。

実習生の中には、初めての就業体験に緊張や戸惑いを見せる学生もいまし

たが、担当職員から業務の説明を受けると真剣に聞き入り、積極的に業務に取り組んでいました。実習生からの実習報告では「資料等の正確な作成が業務の円滑な進行に貢献していることがわかった」「一見すると目立たない業務でも、教職員の生活と密接に関わるものも多く、やりがいのある仕事だと思った」「学内の安全性を高めるために、掲示等により安全の『視覚化』を図ることが大切だと学んだ」などの感想が寄せられました。

（総務企画部人事課）



全体オリエンテーションの様子



職員の指導の下での就業体験の様子

受入部局	受入開始日～終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
総務企画部	9月5日（月）～9日（金）【5日】	水産科学院	修士1年
財務部	9月5日（月）～9日（金）【5日】	工学院	修士1年
学務部	学務企画課	9月5日（月）～9日（金）【5日】	法学部 3年
	教育推進課	9月5日（月）～9日（金）【5日】	文学部 3年
	キャリアセンター	9月5日（月）～16日（金）【10日】 （土日を除く）	法学部 3年
			国際広報メディア・観光学院 修士1年
水産学部	3年		
施設部	9月5日（月）～9日（金）【5日】	工学部	3年
国際本部	9月5日（月）～9日（金）【5日】	文学研究科	修士1年
附属図書館	9月5日（月）～13日（火）【7日】 （土日を除く）	文学部	3年

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報	19,580件	3,345,625,196円
基金累計額（9月30日現在）	教職員の寄附率	38.0%（1,522件/4,010人）

9月のご寄附状況

法人等6社、個人125名の方々から61,603,574円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

アドバンテック東洋株式会社、札幌市役所北大土木同窓会、JNC株式会社、島田内科小児科、社会医療法人禎心会セントラルCIクリニック、臨床非侵襲癌治療研究所

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	浅野 賢二	有司 幸仁	石井紀恵子	石森 直樹	稲田 敏樹	入澤 秀次	上田 一郎
遠藤 夕起	太田 哲司	太田 善雄	岡村 章	小川 敦	小内 透	小野 茂信	小原 大和
帰山 雅秀	鍵和田忠男	金川 眞行	紙谷 敏子	家弓 重正	川上 隆	川上 匠	河田 聡
河本 充司	木村 郁夫	木村 ツヤ	木村 政明	工藤 峰生	窪田 開拓	木幡 浩	小俣 友輝
小松 嘉人	斉藤 久	斎藤実津菜	佐々木啓文	佐藤 幸三	佐藤 裕子	三升畑元基	柴田 浩文
清水 智之	須賀正太郎	杉本 光	鈴木 紹夫	鈴木 正司	関口 新造	瀬名波栄潤	高橋 忠義
高橋 隆司	田中 昭司	谷口 直之	玉腰 暁子	丹野千枝美	土家 琢磨	出口 廣志	寺澤 睦
寺田 治	徳久 治彦	富永 博夫	豊田 威信	中澤 直樹	中前 茂之	中村 勝也	長屋 良行
西 肇	羽賀 哲朗	林 徳治	富士田 徹	藤田 博正	古川 浩司	古川 健	古館 和幸
細井 康雄	細川 歩子	松橋 尚生	松本 脩三	松本 眞吾	松山 清治	村島 義男	森田 真郷
八畝 時雄	山内 隆嗣	山崎 勤	湯山 素	吉田 広志	吉本 靖俊	米田 義広	脇坂 明美
和田 惇	渡辺 康了						

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法人等）

アドバンテック東洋株式会社、臨床非侵襲癌治療研究所

（個人）

河田 聡、木村 郁夫、木村 ツヤ、小松 嘉人、須賀正太郎、玉腰 暁子、徳久 治彦、古川 健、松橋 尚生、松本 脩三、山崎 勤

感謝状の贈呈

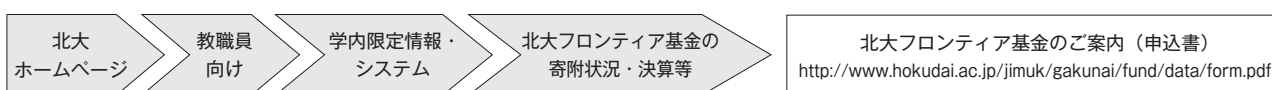


三井不動産株式会社 様（平成28年9月29日）

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。



② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入いただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

④ クレジットカードでのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ（<http://www.hokudai.ac.jp/fund/form.html>）のクレジットカード寄附申込フォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験— 被表彰者の決定

この度、平成28年度北海道大学鈴木章科学奨励賞—自然科学実験—の第1学期被表彰者3名を決定しました。

本表彰制度は、鈴木 章名誉教授のノーベル化学賞受賞を記念して平成23年に創設され、今回を含め37名の学生に授与されています。賞の内容は、第1年次学生が履修する全学教育科目「自然科学実験」において、特に優秀な成績を修め、かつ本学の目指す全人

教育の理念にふさわしい学生を表彰するものです。被表彰者は各学期3名程度、毎年6名程度で、高等教育推進機構長から賞状の授与及び記念品が贈呈されます。

なお、表彰式は第2学期の被表彰者と共に、平成29年3月に行います。

(学務部学生支援課)

【平成28年度第1学期被表彰者】

22組	那 須 海 渡
26組	赤 岩 愛 記
32組	九 鬼 静 香

平成28年度北海道大学フロンティア奨学金受給者の決定

この度、平成28年度北海道大学フロンティア奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学が掲げる「フロンティア精神」、「国際性の涵養」、「全人教育」及び「実学の重視」の4つの基本理念のもとに、将来、社会の各分野においてリーダーとして活躍で

きる人材の育成を目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金で、企業、個人、同窓生及び教職員の皆様方からご支援をいただいております。「フロンティア基金」により運営されています。

なお、給付対象が新渡戸カレッジ奨学金と重複しないよう、今年度は学部

5年次以上及び大学院生を給付対象とし、各学部・研究科等から推薦のあった25名の学生のうち、選考委員による厳正な審査の結果、12名を受給者として決定しました。受給者には1年間にわたり、月額5万円が給付されます。

(学務部学生支援課)

平成28年度小島三司奨学金受給者の決定

この度、平成28年度小島三司奨学金の受給者が決定しました。

本奨学金は、本学の元職員である故小島三司氏の遺志に基づき、アルツハイマー病を研究する大学院生に、奨学金を給付することにより、研究活動の充実を図り、医学の進歩に寄与することを目的として創設された、返還義務のない給付型の奨学金です。

今年度は、3名(医学研究科2名、生命科学院1名)の推薦があり、厳正な審査を行った結果、推薦のあった3名を本奨学金の受給者として決定しました。受給者には、1年間にわたり月額5万円が給付されます。

(学務部学生支援課)

【平成28年度受給者】

医学研究科	樋 口 光太郎
	岸 本 亜由子
生命科学院	矢 原 真 郎

独立行政法人日本学術振興会 平成27年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰に本学から3名

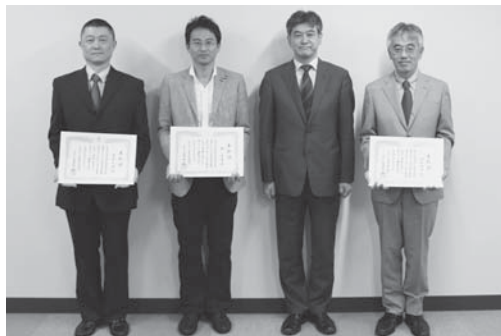
7月31日（日）、独立行政法人日本学術振興会より、平成27年度特別研究員等審査会専門委員（書面担当）及び国際事業委員会書面審査員の表彰者が公表されました。今回は、書面審査において有意義な審査意見を付した専門委員等として、対象者約700名の中から

130名が選ばれ、本学からは、農学研究院の柳村俊介教授、情報科学研究科の菅原広剛准教授及び理学研究院の橘省吾准教授の3名が表彰されました。

表彰の伝達式は9月20日（火）に行われ、川端和重理事・副学長より柳村教授、菅原准教授及び橘准教授へ表彰

状が手渡されました。伝達式終了後、日本学術振興会特別研究員の審査や申請について懇談が行われました。

（研究推進部研究振興企画課）



左から菅原准教授、橘准教授、川端理事・副学長、柳村教授



伝達式終了後の懇談の様子

第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）に山口総長が出席

8月27日（土）・28日（日）にケニア共和国ナイロビ市で開催された第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）に山口佳三総長が出席しました。

平成5年から5年おきに日本で開催されてきた本会議は、アフリカ諸国のオーナーシップを尊重するため、今回初めてアフリカ大陸で開催されました。本会議ではアフリカ53か国、開発パートナー諸国、アジア諸国、国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等がアフリカのさらなる発展のために意見を交わし、「経済構造改革の促進」「強靱な保健システム促進」「社会安定化促進」を3つの柱とした「ナイロビ宣言」が採択されました。また、安倍晋三内閣総理大臣の同行ミッションとして、77団体の企業及び大学等の代表が参加し、同地域と日本の間における経済的・学術的関係のさらなる強化に向けて話し合いが行われました。会場であるケニヤッタ国際会議場内のサイド

イベントを含めた参加者は約11,000名以上でした。

本学からは山口総長はじめ、人獣共通感染症リサーチセンターの鈴木定彦教授、本学ルサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究科教授、中村 聡特任講師及び成澤徳子特任助教（留学コーディネーター）が参加しました。会議と並行して、ルサカオフィスでは、アフリカで活躍する日本企業・大学を紹介するJETRO主催のジャパンフェアで本学のアフリカにおける研究や国際協力活動実績の紹介、及び日本への留学招致活動を実施しました。

山口総長は、本会議の全体会合や「日本・アフリカビジネス会議」に参加するとともに、27日（土）のテーマ別会合では、塩崎恭久厚生労働大臣が共同議長を務めた「質の高い生活のための強靱な保健システム促進」分科会に出席し、当該分野におけるアフリカでの本学の活動について発言しました。このなかで、人獣共通感染症リサーチ

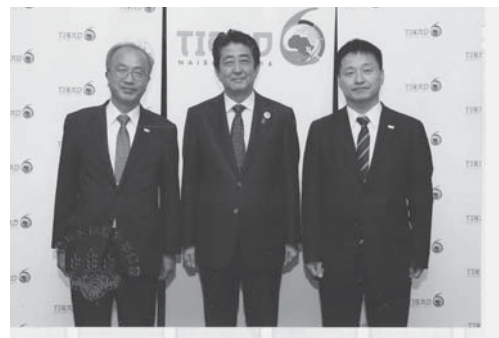
センターによる感染症研究やその成果としての簡易検査キット開発の事例、また、獣医学研究科・人獣共通感染症リサーチセンターにおいて49名のアフリカ人研究者をZoonosis Control Experts（感染症コントロール専門家）として育成し、彼らが地球規模で活躍している実績を紹介しました。さらに、本会議後に開催された安倍内閣総理大臣、ウフル・ケニヤッタケニア共和国大統領ら参加国政府代表者が参加したレセプションにおいても、多くの関係者とアフリカの課題と今後に関する情報交換が行われました。

最終日には、日本の大学・企業とアフリカの関連機関との協定調印式が開催され、本学とプレトリア大学（南アフリカ共和国）との学術交流協定が紹介されました。

（国際部国際連携課）



TICAD VIの会場の様子



安倍総理大臣との記念写真

コチュテル・プログラム参加学生（シドニー大学）が来日

平成26年から国際連携機構（旧国際本部）の支援により、本学農学院が進めてきたシドニー大学とのコチュテル・プログラムについて、8月25日（木）、同大学からコチュテル・プログラム参加者第1号の学生として、シドニー大学の博士後期課程学生であるAlexander Tranさんが来日しました。

コチュテル・プログラムとは、昨年12月に本学にて制度導入された博士後期課程における教育プログラムで、参加学生が1年以上連携大学に滞在し、組織的かつ計画的に、本学と連携大学の指導教員が共同で研究指導を行うプログラムです。連携大学の指導教員をメンバーに加えた学位審査を行い、本籍大学の修了要件を満たした際に、「博士課程修了に必要な研究指導は〇〇大学（連携大学名）と共同で実施したものである」と付記された学位記が当該大学から授与されます。

Tranさんの研究テーマは「アーバスキュラー菌根菌と細菌の相互作用による作物のリン獲得機構（Arbuscular Mycorrhizal Fungi (AMF) -bacterial interactions are key drivers of crop plant phosphorus uptake）」で、主に根圏微生物の生態と機能に関する研究を本学で行う予定です。シドニー大学の主任指導教員であるMichael Kertesz准教授は、リン溶解細菌の分泌するリン酸エステル加水分解酵素の遺伝子を広く検出するプローブの開発者であり、



参加学生のTranさん

本学の主任指導教員である江澤辰広准教授は、リン酸を植物に直接供給する共生菌について大規模な生態調査を主導している関係で、両大学での共同研究が今回の共同研究指導の協力関係へと進展しました。

Tranさんは博士後期課程の在籍期間中に3回に分けて来日し、約1年間本学で研究を行う予定です。

（国際部国際連携課）



活動風景

新入留学生オリエンテーションを実施

本年10月に入学した留学生を対象として、新入留学生オリエンテーションを10月4日（火）に実施しました。このオリエンテーションは、留学生が一日も早く本学での学生生活に慣れ、戸惑いや不安を解消し、新しい環境へ適応してもらうことを目的としています。午前中は英語、午後からは日本語で進められ、47の国と地域から新たに渡日した422名の新入留学生が参加しました。

まず国際連携機構留学生相談室の石井治恵カウンセラーから、日本の学生生活で適応するためのヒントについての講演があり、先輩留学生から大学内外での手続きや生活の注意点の話がありました。卒業後の進路を見据えた学生生活を送るようと人材育成本部の飯田良親特任教授からの話があり、参加者は聞き入っていました。続いて、日本独特の住環境についてのアドバイス、警察から日本の交通ルールの説

明、留学生や外国人支援を行っている様々な団体から活動紹介がありました。

オリエンテーション終了後は留学生サポート・デスクのスタッフが希望者に対しキャンパスツアーを実施し、約50名の留学生が約1時間かけてキャンパスを歩き、これから過ごすキャンパスの説明を受けました。

（国際連携機構）



熱心に話を聞く留学生



日本語・英語・中国語3言語でのキャンパスツアー

国際連携研究教育局（GI-CoRE）量子医理工学グローバルステーションが第3回医学物理サマースクールを開催



講師及び参加者一同

GI-CoRE量子医理工学グローバルステーションは、スタンフォード大学放射線腫瘍学科と合同で、8月22日（月）から26日（金）まで、国際本部中講義室及び陽子線治療センターを会場とし、第3回GI-CoRE医学物理サマースクールを開催しました。今年で3度目となるサマースクールには例年よりも格段に多い49名の応募があり、厳正な

書類選考の結果、米国、中国、ドイツ、韓国、ベトナム、タイ、バングラデシュ、ネパール、ガーナ、パキスタン、ナイジェリア、ラトビア、日本から19名が参加しました。

また、本学医学研究科、工学院、保健科学院、病院、情報基盤センターからの講師に加え、スタンフォード大学、カリフォルニア大学（UCLA）、

国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所、名古屋陽子線治療センター、株式会社日立製作所から多彩な講師陣を迎え、陽子線治療装置を使った実習に加え、アイソトープ総合センターでの画像誘導放射線治療（IGRT）実習も組み込む等、例年よりも臨床研修を強化した内容のカリキュラムでの実施となりました。

受講者からは、理論と実習を網羅した包括的なコース内容に対して大変高い評価を得ると共に、講義後のアンケート調査実施により来年度に向けての改善点も確認することができました。なお、本サマースクール実施によって培われてきた多様なバックグラウンドを持つ国内外からの学生受入及び教育にかかる経験・知識を活かし、平成29年4月に開設される医理工学院でも世界各国からの優秀な学生を受け入れる予定です。

（国際連携研究教育局）

「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター 動物実験施設慰霊祭」を挙行

創成研究機構では、9月27日（火）に、生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設において、創薬・機能性食素材の研究開発・事業化の礎として実験に供せられたマウス、ラット、ウサギの慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭には同施設で研究を行っている教職員、大学院生等約60人が参列しました。はじめに生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センターの幸田敏明センター長から、動物実験は、尊い命を犠牲にしていることを常に念頭に置いて実施していただきたい旨の挨拶があり、その後、参列者全員によ

る黙祷並びに献花が行われました。終わりに小布施力史先端生命科学研究院教授から、医学・生命科学の研究のために捧げられた動物に対する慰霊の言葉が述べられました。

参列者全員が生命の尊厳、倫理観について考える機会となり、厳粛のうちに慰霊祭を終了しました。

（研究推進部研究支援課）



挨拶を述べる幸田センター長



参列者による献花

国際シンポジウム「学生と共に創る教育の質保証～SA, TA, PFFなどのこれから～」を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9月8日（木）に国際シンポジウム「学生と共に創る教育の質保証～SA, TA, PFFなどのこれから～」を学术交流会館小講堂において開催しました。

本シンポジウムは、教育活動におけるSA, TA, PFF等に焦点を当て、国内外の取組事例を参考に、教育活動の負担軽減、博士研究者・若手研究者の確保といった問題について議論することを目的として、高等教育研修センターが主催し実施したもので、道内大学等の他、道外からも多数の参加がありました。

開催にあたり、新田孝彦センター長から挨拶があった後、アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校のLinda von Hoene氏、中国・清華大学のShi Jinghuan氏から各大学における本問題

への取組事例の報告が行われました。その後、国内の大学の取組として、本学の細川敏幸教授、大阪大学の佐藤浩章准教授、嘉悦大学の白鳥成彦准教授から取組事例が報告されました。

次いで、文部科学省高等教育局の薮本沙織学務係長、流通科学大学の宇田川拓雄特任教授による指定討論が行われた後、全体討論が行われ、活発な質疑応答が行われました。

事後アンケートでは、「アメリカ・中国のケースを交えて現状を理解できてよかった」「TAの位置的なもの、立場的なもの、また能力についても少し理解できた」等の意見があり、参加者にとって有意義なシンポジウムになったようです。

（高等教育推進機構）



取組事例報告の様子



全体討論の様子

Workshop on creating rubricsを開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、教員に対するFDの一環として、9月13日（火）に高等教育推進機構S5講義室においてWorkshop on creating rubrics（ルーブリック評価表作成ワークショップ）を実施しました。

本ワークショップは、教員の成績評価における信頼性・客観性・透明性などが強く求められている現状において注目を集めているルーブリック評価※について、基本的な知識を学び、実際にルーブリック評価表を作成することを目的とし、大学等教員を対象に英語で実施されました。

講師のカリフォルニア大学バークレー校Linda Von Hoene氏から基本的知識に関する講演があった後、参加者は実際に使用するためのルーブリック評価表を作成し、他の参加者からのフィードバックを基にブラッシュアップ

を行いました。

参加者のアンケートからは「ルーブリック評価に関してとても明確で役に立つ説明だった」「よく構成されており、理論と実践のバランスがちょうど良かった」等の意見が見られました。

高等教育研修センターでは、今後も教職員を対象とした様々な研修を開催する予定ですので、積極的にご参加願います。

※ルーブリック評価

評価の観点を縦に列挙し、横にその基準を明記した表を用いた評価手法。採点の根拠が明確となり、学生・教員双方にとって、プレゼンテーション、レポート、実習や制作物などの有用な評価手法として注目を集めている。

（高等教育推進機構）



ワークショップの様子



第30回北海道大学教育ワークショップを開催



集合写真

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、9月14日（水）・15日（木）に、北海道の大学等に着任して5年未満の新任教員を対象とした新任教員研修（北海道大学教育ワークショップ）を高等教育推進機構S講義棟S5講義室で開催しました。

今年度は「アクティブ・ラーニング型授業の設計」をテーマに開催し、学内の教員21名、学外の教員6名の参加があり、仮定の授業科目を発案し、そのシラバス作成を通じて、教育の基礎を理解し、授業のデザイン方法、新しい教育手法等を身に付けることを目指しました。

開催にあたり、新田孝彦センター長から挨拶があった後、オリエンテーションが行われ、その後、シラバスを作成するメインプログラムに入りました。

このプログラムは、課題の「レクチャー」「グループ討論」及び「成果の発表、全体討論」を1セットとして、3つの仮題について行い、参加者はシラバスを具体的に作り上げていく過程を通して、授業の目的・内容・評価方法の3つの基本的要素を体験的に学びました。また、各セットの間には自身のシラバスの校正と講師による添削、授業での悩みやそれらを解決するためのディスカッションが行われました。

最後に、細川敏幸副センター長から受講者へ教育ワークショップ修了証書が手渡され、全日程が終了しました。

事後アンケートでは「今まで漠然と読んでいたシラバスの体系について理解できた」「講義（シラバス作成も含む）をする際の指針ができ非常に有意義だった」「普段考える機会が少ない内容を教えてもらいとても良かった」等の意見が見られ、大変有意義なワークショップとなりました。

本ワークショップは、今年度は11月にも開催予定です。

（高等教育推進機構）



ワークショップの様子



平成28年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催

化学物質を扱う際にばく露を防止して安全に実験を行うための装置として、本学でもドラフトチャンバー等の局所排気装置が多数の実験室に設置されています。これらの適切な維持管理のために、労働安全衛生法では1年を超えないごとの定期自主検査が義務付けられています。その知識・技能の習得を目的として、「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催しました。今年度は、9月13日（火）から16日（金）に、昨年度の理学部に加え、水産学部（函館キャンパス）及び工学

部の3会場で計5回実施し、合計33人が受講しました。

講習では、厚生労働省の示す「局所排気装置の定期自主検査指針」に則った定期自主検査の技能の習得だけに留まらず、定期的なメンテナンスが必要になることやその方法の習得、性能低下時の不具合の発見と問題の切り分けができること、そしてそれらを研究室の学生達にも指導できることを目標として、川上貴教安全衛生本部教授による座学と、金澤浩明茨城大学工学部技術部技術専門職員による実技により、

理解を深めました。

なお、化学物質取扱講習会の受講、講習後に実施する各研究室のドラフトチャンバーの検査結果提出等、一定の条件を満たした本講習受講者に修了証を発行することとしています。

また、本講習は、今後も毎年度開催することを予定しています。局所排気装置等を使用する研究室の教職員におかれましては、積極的に受講するようお願いいたします。

（安全衛生本部）

講習の内容

1. 局所排気装置の定期自主検査指針
2. 検査に使用する測定器等に関する知識
3. フード、ダクト及び吸排気的能力に関する検査方法（実技）
4. ファン及び電動機に関する検査方法（実技）



講義の様子



実技の様子



研究者のためのスキルアップセミナー⑧「伝わるデザインの法則：外部資金獲得のためのレイアウトとデザイン」を開催

8月9日（火）、フロンティア応用科学研究棟において、研究者のためのスキルアップセミナー⑧「伝わるデザインの法則：外部資金獲得のためのレイアウトとデザイン」を開催しました。

当セミナーは、大学力強化推進本部と創成研究機構が、研究大学強化促進事業の一環として、研究者が成果等を社会に発信する際に必要となるスキルの向上のために、平成25年より実施している「研究者のためのスキルアップ

セミナー」の第8弾として実施しました。

今回は特に、科学研究費助成事業等の研究助成の申請書や研究成果の報告書などを、読みやすく伝わりやすくするための図表表現・レイアウトについて学んでいただこうと企画しました。

はじめに、研究戦略室総長補佐の網塚 浩理学研究院教授による開会の挨拶があり、大学力強化推進本部URAステーションの加藤真樹URAによる「科研費応募支援について」の講演、

千葉大学大学院理学研究科生物学コースの高橋佑磨特任助教に「伝わるデザインの法則：外部資金獲得のためのレイ



会場の様子

「レイアウトとデザイン」と題してご講演いただきました。

講演後には、参加者から提供された実際の申請書やポスター、プレゼンテーション資料などを用いたBefore Afterの実例演習を行い、会場からは活発な質問・意見がありました。

教職員・大学院生を中心に160名の参加があり、参加者アンケートでは9

割の方に当セミナーに「満足」と回答いただきました。また、今後のセミナーの課題についてのご意見も多くいただき、研究者向けスキル向上セミナーへの関心の高さがうかがえました。

今後も当セミナーの定期的・継続的な開催を検討していきます。

(創成研究機構)



挨拶をする網塚教授



加藤URAによる講演



高橋特任助教による講演の様子



質疑応答の様子

第37回創成科学サロン&夏の宴を開催

創成研究機構では、8月8日(月)、創成科学研究棟1階レストランポプラにおいて、北キャンパス地区に集う研究機関同士の交流を目的として、第37回創成科学サロン並びに懇親会「夏の宴」を開催しました。

今回で37回目の開催となる当サロンには約80名の参加者があり、はじめに、川端和重創成研究機構長による開会の挨拶があった後、7月26日(火)にリニューアルオープンを迎えた総合博物館の山本順司准教授から「つかえる博物館オープン」と題して、いかに博物館は変わったのか、各展示の見どころ、さらには今後の構想などについて詳しい話がありました。

また、株式会社スペースタイムの大

澤夏美氏(文学研究科北方文化論講座修士修了)に「ミュージアムグッズの世界へようこそ!」と題して、日本中にある魅力的な博物館グッズや雑貨についてお話いただき、後半の夏の宴のワークショップ、ミュージアムグッズ開発のヒントになるような情報を提供いただきました。

サロン終了後は、引き続き、懇親会「夏の宴」が行われました。夏の宴では、博物館グッズ企画ワークショップを行いました。北大生協専務理事の岸本敬一氏より博物館グッズの売り上げ動向や人気商品などについてお伺いした後、サロン参加者の方に実際に博物館グッズを企画していただきました。

約60点の商品企画案の中より実際に

商品開発できそうな企画案を北大生協より発表していただき、見事選ばれた方には景品が授与されました。終始和やかな雰囲気のもと、参加者は学内外との親睦を深めていました。

(創成研究機構)



会場の様子



川端創成研究機構長による挨拶



総合博物館 山本准教授による講演



株式会社スペースタイム 大澤氏による講演

第1回食科学プラットフォームセミナーを開催

9月27日（火）農学部大講堂において、産学・地域協働推進機構が主催する第1回食科学プラットフォームセミナーを開催しました。当セミナーは、「食と健康」研究会の趣旨を継承しつつ、「食（生産、加工、流通）」を重点テーマとして産学官の研究者等、関係者が自由闊達に意見交換できる場を提供しています。

今回は「北海道農業の現状と将来を考える」と題し、北海道農業の現状を知り、将来に対する課題を抽出するとともに、その解決策について議論しました。会場には大学教職員、学生、道内外企業、農業関係者、道内研究機関、官公庁から95名の参加がありました。

はじめに、農学研究院の川村周三教授から「進化する北海道の農畜産物－その成果と課題－」と題し、北海道における米、ジャガイモ、牛乳、ニンジ

ンそれぞれの保存技術に関する現状と課題について話がありました。北海道立総合研究機構農業研究本部企画調整部長の原 仁氏から「北海道農業の現状と農業試験場の技術開発」と題し、北海道における農業経営の現状と北海道立総合研究機構の取り組みについてお話いただきました。また特別講演として、パナソニック株式会社 AVC ネットワークス社アグリ事業推進室主幹の松葉正樹氏から「パナソニックの植物工場事業の取り組み」と題し、日本各地で建設されている「植物工場」の現実とパナソニックの取り組みについてご講演いただき、大変な反響がありました。

本プラットフォームでは、「食」をテーマに学内外の講師や若手研究者が研究成果等を発表し、交流することを目的としています。このプラット

フォームは、安全・安心で高品質な「食」に恵まれた北海道において「農業」「漁業」「食品加工」分野のプロジェクト創成を目的とした、産学官のプラットフォームとして機能することを目指し、定期的にセミナー等を開催しています。

本プラットフォームの事務局は産学・地域協働推進機構が担っていますが、今後も皆様の期待に応えられるよう、新たなプロジェクト形成に向けて、関係者のご協力を得ながら具体的な成果の創出を目指して参ります。

本プラットフォームに興味のある学内研究者は、お気軽にお問い合わせください。

◆jigyo@mcip.hokudai.ac.jp

（産学・地域協働推進機構）



農学研究院 川村教授



北海道立総合研究機構農業研究本部企画調整部 原部長



パナソニック株式会社
AVCネットワークス社アグリ事業推進室 松葉主幹



総合討論の様子



会場の様子

人材育成本部上級人材育成ステーションS-cubicで 第29回「赤い糸会&緑の会」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、9月14日（水）に学術交流会館にて本年度第1回目の「赤い糸会&緑の会」を開催しました。

本会は、企業と若手研究者（DC、PD）との直接情報交換会であり、企業には若手研究者の高い専門性や総合力を理解いただき、若手研究者には企業の研究開発活動や企業における博士の活躍状況等を知ってもらうことで、相互理解を深め、視野の複線化、活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回で「赤い糸会&緑の会」は通算29回目の開催となり、若手研究者の参加も回を重ねるにつれ増加し、9部局から34名（DC：31名、PD：3名）、また、平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業で、東北大学から3名、名古屋大学から1名の若手研究者が参加し、さらに本学と個別連携しているお茶の水女子大学から1名、兵庫県立大学から1名の若手研究者も参加しました。企業からは、各種業界から16社（40

名）、オブザーバ企業1社、オブザーバ大学4校、総勢44名にご参加いただきました。

本会では、冒頭の人材育成本部長の望月恒子教授による開会挨拶、赤い糸会担当の樋口直樹特任教授による趣旨説明の後、参加企業の皆様から業界動向や博士の活躍状況等の紹介が行われ、その後、若手研究者の自己紹介ポスター発表、企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行われました。

さらにはこの「赤い糸会&緑の会」を通じて企業に就職した若手研究者の先輩方5名が今回の企業説明会に参加し、後輩達に対して熱い思いを語ってくれました。

開催後の企業側のコメントからも、「初めての参加でしたが学生の方が熱心に取り組まれていて驚きました。今後も参加を続けさせていただきたいです」「学生の意欲も高く、企業としても楽しめました。ありがとうございました」との声をいただくことができました。また参加した若手研究者からは、「大学内には経験が出来ない

多くの企業とのマッチングの検討は大変参考になった」「思っていたよりも企業の方が積極的に熱心に取り組まれていて驚きました。今後も参加を続けさせていただきたいです」といった嬉しい声も聞かれました。

終わりに、人材育成本部では以上の活動に加えて、企業事業所視察、Advanced COSA、J-window、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、また企業での長期インターンシップ等を通して、これまで以上に若手研究者の実践力を高めることへ注力して参りますとともに、コンソーシアム結成により、東北大学や名古屋大学が運営しているより多くの洗練されたプログラムを博士たちに提供できるようになりましたので、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、興味のある方は人材育成本部のホームページをぜひご覧ください。

◆<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



望月人材育成本部長の開会挨拶



樋口人材育成本部特任教授の趣旨説明



企業からの業界動向説明



説明に聞き入る若手研究者



若手研究者のポスター発表



企業との個別情報交換

平成28年度北海道地区国立大学教養教育連携実施事業 FDフォーラム「北海道から遠隔授業を考える」を開催

北海道地区国立大学連携教育機構では、9月1日（木）に北海道地区国立大学教養教育連携実施事業FDフォーラム「北海道から遠隔授業を考える」を高等教育推進機構N1講義室において開催しました。

北海道地区国立大学教養教育連携実施事業は、北海道地区国立大学が教養教育の授業科目を双方向の遠隔授業や対面授業で提供し合うことにより、各大学の教養教育の充実強化を図ることを目的とした事業です。本格実施2年目となる今年度は、7大学合わせて123科目が提供されており、前期は、昨年度の約2.5倍となる延べ170名の履修者があり、本事業に対する学生への理解が着実に進んでいるところです。

今回のフォーラムは、本年2月に開催した第1回のフォーラムに引き続き、本事業の中間報告と位置付けて開

催しました。

前半は、新田孝彦北海道地区国立大学連携教育機構長からの挨拶に続いて、テレビ会議により本学東京オフィスから、安井順一郎文部科学省高等教育局国立大学法人支援課企画官の挨拶があり、小林幸徳北海道地区国立大学連携教育機構副機構長による本事業の概要説明の後、穂屋下茂佐賀大学全学教育機構特任教授から「佐賀大学における同期型遠隔授業と先進的ICT活用教育」と題した基調講演が行われました。

後半は、重田勝介高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター副センター長の進行により、これまでに本事業で遠隔授業を担当された各連携大学や奈良教育大学の教員から、特色ある遠隔授業の事例報告とパネルディスカッションが行われました。

本フォーラムは、テレビ会議やスカイプにより、北海道地区の連携大学に加えて、奈良教育大学、佐賀大学及び本学東京オフィスと接続して行われ、一般の方を含め約130名の参加があり、関心の高さがうかがえました。

参加者のアンケートからは、「遠隔授業の可能性と問題点を知り、従来の授業方法の在り方について考える機会となった」「機器操作、授業の進め方、生徒とのコミュニケーション等、各先生方の苦労や思いも含めて、その実践例を伺うことができ、とても参考になった」等の意見があり、今後の遠隔授業の改善に向けた情報交換ができました。

（学務部教育推進課）



主催会場（北海道大学）の様子



本学東京オフィスから挨拶する安井企画官



穂屋下特任教授による基調講演



遠隔授業に係る事例報告の様子
（飯田真紀メディア・コミュニケーション研究院准教授）

■ 部局ニュース

山口総長、徳久理事・事務局長が練習船おしよろ丸に乗船

9月10日（土）に全学教育科目「海のフィールドに出よう1・2」が練習船おしよろ丸で開講され、山口佳三総長と徳久治彦理事・事務局長が乗船しました。

山口総長と徳久理事・事務局長は、本科目を履修した総合教育部1年生等と一緒に、高木省吾おしよろ丸船長による練習船に関する講義を熱心に聴講しました。乗船中はイカ釣り実習、ROV（水中カメラ）、ロープワーク、操船実習、海洋観測実習を体験し、水産学部教員による説明に興味深く耳を傾けていました。

平成26年7月の練習船おしよろ丸V世竣工後、山口総長が実習航海に乗船

するのは初めてとなります。また、今回の山口総長の乗船に合わせ、通常おしよろ丸のメインマストに掲げられている水産学部の旗「北水旗」にかわり、「北海道大学の船」としてエンレイソウをかたどった「北大旗」を掲げましたが、これもおしよろ丸にとって

初の出来事となりました。

これからも、本学が他大学に誇る「洋上のキャンパス」として教育研究を進めて参りますので、関係各位のご理解ご協力をお願いいたします。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



函館山をバックに坂岡桂一朗首席一等航海士に船内を案内される山口総長と徳久理事・事務局長



船首デッキでの学生との談話



イカ釣り実習にて見事イカを釣り上げる山口総長



星直樹首席二等航海士によるおしよろ丸操船実習



大西広二助教による海洋観測の講義

理学院がベトナム科学技術院数学研究所とダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結

理学院では、9月26日（月）にベトナム科学技術院数学研究所とのダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結しました。理学部応接室で執り行われた調印式には、ベトナム科学技術院数学研究所から局長（director）のLe Tuan Hoa教授が、本学院からは鈴木徳行理学院院长をはじめ3名が出席しました。

本学とベトナム科学技術院数学研究所は、既に部局間交流協定を締結していますが、博士課程における相互協

力、教育研究交流を促進させるためにダブル・ディグリー・プログラムに関する覚書を締結したものです。

この覚書に基づき、今後、両部局間

における学生交流が活発に行われることが期待されます。

（理学院・理学研究院・理学部）



調印式の様子



調印式後の記念撮影

薬学研究院・薬学部で台北医学大学との学生交流（受入れ・派遣）を実施

薬学研究院・薬学部では、実践的な臨床教育、薬学研究における国際的人的交流と研究交流を深めるために、台北医学大学との学生交流（受入れ・派遣）を行いました。

まず、本年8月に台北医学大学薬学部3年生2名を薬学部専門科目授業（4週間のプログラム）の特別聴講生として受入れました。プログラムの内容は、前半が実践的臨床教育に関するものであり、薬剤師の調製や管理のほか、薬剤師に随行して病棟へ行くなどの病院見学、講義や学習成果の発表・討論を行いました。プログラム後半

は、基礎的研究の講義及び実習であり、「薬の効果の評価」や「薬を効かせたいところへ送達させる手法」に関する講義や実験を行いました。担当した研究室の学生も参加しての発表会では、活発な討論が行われました。終了後、学生にプログラム修了証が授与されました。

次に、9月5日（月）から2週間、本学から2名の学生（臨床薬学専攻博士課程）を台北医学大学へ派遣しました。この間台北医学大学では、第2回となる「北海道大学・台北医学大学・九州大学 薬学ジョイントシンポジウ

ム」が開催されたため、派遣学生は同ジョイントシンポジウムに参加して研究の概要を理解した後、台北医学大学薬学部の研究室を見学、各自の研究内容に関する発表と質疑応答を行いました。また、台北医学大学の附属病院及び提携病院では、主に薬剤師が行っている業務や臨床研究部門を見学し、薬剤師業務や医療・保険制度の両国間の違い等について情報交換を行いました。

（薬学研究院・薬学部）



台北医学大学学生と北海道大学病院スタッフ



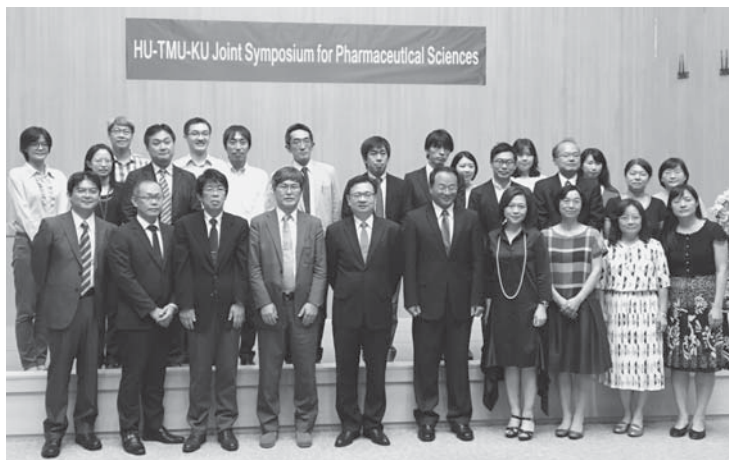
研究室での様子



修了証を受け取る台北医学大学の学生



薬学研究院・薬学部がThe 2nd HU-TMU-KU Joint Symposium for Pharmaceutical Sciencesに参加



参加者記念撮影

薬学研究院・薬学部は、9月5日（月）に台北医学大学で開催された、第2回北海道大学・台北医学大学・九州大学 薬学ジョイントシンポジウムに参加しました。

ジョイントシンポジウムには、本学薬学研究院、台北医学大学、九州大学の3大学から約80名が参加し、本学からは、南 雅文薬学研究院長と本学からの短期交換留学生及び4名の教員が参加しました。シンポジウムは昨年8月に第1回目が本学薬学研究院で開催

され、台北医学大学との大学間交流協定も締結されているものです。

シンポジウムでは、natural products and medicinal chemistry（天然物化学と創薬化学）、biophysical and analytical chemistry（生物物理化学と分析化学）、biochemistry, pharmacology and DDS（生化学、薬理学と薬物送達学）、clinical pharmacy and pharmacology（臨床薬学と臨床薬理学）の4つのセッションからなる薬学研究領域を広範にカバーする内容で、本学、台北医



シンポジウム前に交流する南薬学研究院長とWu Chieh-Hsi学部長



講演する市川 聡教授

学大学、九州大学から4名ずつ、計12名の発表者による講演が行われました。参加者は熱心に発表者の話に聞き入り、講演後の質疑応答では広い分野からの質問も寄せられ、活発な議論が行われました。

（薬学研究院・薬学部）

平成28年度地球環境科学研究院公開講座「サステナビリティに資する化学」の終了について

地球環境科学研究院では、平成28年度公開講座「サステナビリティに資する化学」を8月23日（火）から9月27日（火）まで全6回開講し、40歳代から80歳代までの46人が受講しました。

サステナビリティとは持続可能性を意味し、本学でも毎年サステナビリティ・ウィークを開催しています。今日の物質的豊かさを保ちつつ、環境に調和した持続可能性に富む社会へと転換していくためには、物質や材料を扱う化学の力が必要です。この公開講座では、物質材料科学や化学反応計測等の研究に携わる6人の研究者たちが最

新の研究成果をわかりやすく説明し、受講者からも非常に好評のうちに終了となりました。

最終回の講義終了後、全6回の講義

のうち4回以上出席した40人の受講者に修了証書が授与されました。

（環境科学院・地球環境科学研究院）



久保川厚研究院長による開講挨拶



八木一三教授による講義（第1回）

先端生命科学研究院・生命科学院FD研修「ルーブリック入門」を開催

先端生命科学研究院・生命科学院は、9月15日（木）に北キャンパス・シオノギ創薬イノベーションセンター1階産学コミュニティホールにおいて、FD研修「ルーブリック入門」を開催し、教員20名が参加しました。学部・大学院の授業では、講義、演習、実験科目でテスト、レポート作成の他、プレゼンテーション、チーム学習などいわゆるアクティブ・ラーニング形式の授業設計が多くなってきました。一方で、大学設置基準等で示されているように、学修の成果に係る評価にあたっては、客観性及び厳格性を確保し、成績評価にあたっては学修行動調査や学習到達度調査で使用する具体的な測定手法も明確にすることが求め

られています。最近関心が高いルーブリック評価はこの代表的な測定手法です。そこで、本学高等教育研修センターの山本堅一特任准教授をFD研修の講師に迎え、ルーブリック評価入門編の紹介を行いました。

研修では、「ルーブリック評価の基本を理解し、メリット・デメリットを説明できること」「色々なルーブリック評価の使い方を知る」「今後自身で使用するルーブリックは作成できるかなという気持ちになる」を目標としました。山本特任准教授から基礎知識の理解、作成手順など優しく説明がありました。使用する教員側が評価を重視するか学生へのフィードバックを重視するかなど、ルーブリックを使用する

場面を明確にすることを踏まえ、学生に事前に観点や基準を提示することで学習を促す効果が得られることや評価結果を提示しやすいなど、実践的な活用方法や作成手順についてサンプル評価表を用いた解説がありました。

参加した教員のほとんどが「ルーブリックは初めて聞く程度」でしたが、講演終了後には、若手教員からも実践する際の考え方の確認や課題について積極的な質問や意見交換もあり、アクティブ・ラーニング授業を担当する各教員も学修行動調査や学習到達度調査の評価方法の改善を再認識する研修となりました。

（生命科学院・先端生命科学研究院）



山本特任准教授によるルーブリック評価の基礎知識の説明

農学研究院で平成28年度第1回FD研修会を開催

農学研究院では平成28年度第1回FD研修会「北海道大学におけるハラスメント対応の現状と課題」を、9月12日（月）に農学研究院総合研究棟多目的室W109で開催しました。受講生は教員28名と事務職員4名の計32名でした。

当日は、講師のハラスメント相談室長である文学研究科の櫻井義秀教授から、本学におけるハラスメント対応の現状と課題について講演がありました。ハラスメント対策は社会からの要請で行わなければいけない、という面だけでなく、安心な学習環境、職場環

境の確保という観点で大学の義務であり、大学を良くするために必要である、との話がありました。また本学のハラスメント相談体制は本年度より大きく変わり、各部局に配置されたハラスメント相談員はなくなり、ハラスメント相談室の専門相談員が対応に当たることになりました。これは一見、相談窓口までの距離が遠くなった感じがしますが、申立人の権利を保護する目的でもあり、実際には相談件数は大幅に増加していることが紹介されました。

ハラスメントになるかどうかの判断基準は、人によって受忍限度が異なる

ので、どうしても曖昧になります。具体的なノウハウとして、電子メールでのやり取りは公開される可能性も考えて簡潔に行う、大学院生とは研究のやり方や範囲をよく話し合っておく、お酒の席での言動には特に気をつける、などが紹介されました。また、留学生の増加や、学力の多様化など、学生の質の変化、あるいは外国人の教職員の増加など、大学の構成員の多様性が増していることに配慮すべきであるとの話がありました。質疑応答では、実際の事例も交えて、活発な討論が行われました。

ハラスメントは悪意があつて行う、という事例は極めて稀であり、うっかり行ってしまうものがほとんどです。ハラスメント問題は倫理問題ではな

く、人間関係や組織に必ずついてまわる葛藤であり、問題が小さいうちに調整して解決することの大切さが確認されました。

今回講演いただいた櫻井教授には、ここに改めて感謝申し上げます。

(農学院・農学研究院・農学部)



櫻井教授



研修の様子

農学院において「留学生オリエンテーション」を開催



昭和新山での記念撮影

9月15日(木)に農学院留学生オリエンテーションを行いました。札幌農学同窓会の後援によって行っているこの行事は、北海道の農林に関する施設及び農家などを見学し、北海道の歴史・文化の理解を深めることを目的としています。農学院留学生オリエンテーションは新年会とともに約30年前

から毎年行っており、当初は1泊2日の旅行でしたが、留学生の増加に伴い、日帰り旅行へと変更し、現在に至っています。

今年は夏休みのため参加者は例年より少なかったものの、留学生と教職員合わせて22名が参加しました。午前中に、2008年北海道洞爺湖サミットの会

場となったザ・ウィンザーホテル洞爺、昭和新山及び有珠山を、午後には、伊達市農業協同組合の野菜集出荷施設を見学し、留学生にとってとても充実した1日となりました。

(農学院・農学研究院・農学部)



ザ・ウィンザーホテル洞爺の見学



野菜集出荷施設の見学



農学研究院が台湾・中興大学演習林開設100年記念シンポジウムに参加

本学と台湾・中興大学は、平成24年3月に大学間交流協定を締結しています。本年、中興大学の演習林が開設100周年を迎え、9月14日（水）に同演習林内にある会議場にて祝賀記念シンポジウムが開催され、本学から農学研究院の横田 篤研究院長と小池孝良教授が参加しました。

シンポジウム前日の13日（火）には中興大学の薛富盛学長を表敬訪問しました。また、陳奕君助教、楊登鈞助教の案内により農業自然資源学院を訪問し、陳樹群学院院长に挨拶後、演習林を見学しました。中興大学演習林は大正5（1916）年に東北帝国大学農科大学の7番目の能高演習林として設置され、大正8（1919）年から終戦まで北

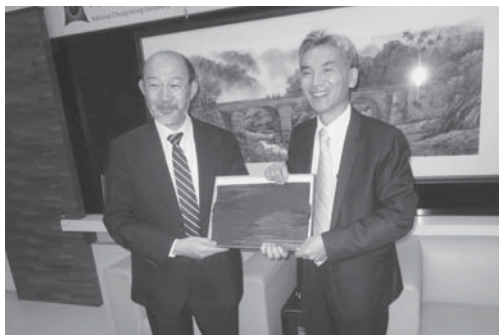
海道帝国大学の演習林として運営されました。戦後、中興大学演習林となり現在に至ります。また、その名称は中興大学第2代学長の湯惠蓀先生にちなんで「惠蓀林場」と呼ばれています。

14日（水）の記念シンポジウムでは、午前の部において「北海道大学と中興大学演習林の歴史的な関係と北大演習林の現状」について横田研究院長と小池教授が講演を行いました。また、中興大学演習林長の曾彦学副教授により、惠蓀林場は森林教育と薬用植物の開発拠点として発展しているとのお話がありました。午後の部では、湯惠蓀先生とゆかりのある中国・雲南大学をはじめ、中国・東北林業大学、インドネシア・ボゴール農業大学からの

講演がありました。続いて、台湾林務局、台北大学演習林、台湾林業試験場からそれぞれの歴史と現状について報告がありました。終戦まで台湾には本学以外に東京帝国大学、京都帝国大学、九州帝国大学の演習林があり、それらは現在、台湾大学実験林、林業試験所試験林、台北山林管理林としてそれぞれ運営されていることが紹介されました。

この記念行事は国家行事のため、最後に政府の査定官である王亞男女史から講評がありました。今回の訪問を機会に、両大学の交流が益々盛んになることを願っています。

（農学院・農学研究院・農学部）



中興大学薛学長に記念品を贈呈する横田農学研究院長



中興大学実験林（惠蓀林場）の正門前で撮影（左から、実験林管理所所長曾副教授、横田教授、小池教授、陳助教）

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月28日（水）に、学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された365名の御霊の御冥福をお祈りするため、慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、御遺族、山口佳三総長、理事、部局長、教職員、学生、学外関係者等約360名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、笠原

正典医学部長及び横山敦郎歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一



追悼の辞を述べる笠原医学部長



追悼の辞を述べる横山歯学部長

層の教育・研究・診療の発展に努めた
い旨の追悼の辞がありました。その
後、参列者による献花を行い、最後に
横山歯学部長から謝辞があり、慰霊式
は厳粛のうちに終了しました。

(医学研究科・医学部, 歯学研究科・歯学部)



献花をする山口総長



謝辞を述べる横山歯学部長

動物慰霊式を挙行

遺伝子病制御研究所

遺伝子病制御研究所では、9月30日
(金)に遺伝子病制御研究所セミナー
室において、昨年9月から1年間に学
術研究の礎として実験に供せられた動
物の御霊を慰霊するため、動物慰霊式
を執り行いました。

慰霊式には研究所教職員、学生等関
係者が多数参列し、はじめに、村上正

晃研究所長から挨拶と共に、生命の尊
さを常に考え、動物福祉に一層配慮し
た研究態勢を考えていくことを願う旨
の挨拶がありました。引き続き、参列
者全員による黙とう、研究分野等代表
者による献花が行われ、最後に、清野
研一郎動物実験施設長から追悼の辞と
共に、今後とも諸法令を遵守し、適切

な動物実験の実施について、理解と協
力を願う旨の挨拶がありました。

この動物慰霊式を通して、参列者全
員が生命の尊厳、倫理観について改め
て認識し、厳粛のうちに慰霊式を終了
しました。

(遺伝子病制御研究所)



挨拶を述べる村上研究所長



挨拶を述べる清野動物実験施設長

医学研究科附属動物実験施設

医学研究科附属動物実験施設では、
10月5日(水)に平成28年度動物慰霊
式を医学部学生会館「フラテ」ホール
において執り行いました。

本慰霊式は、医学並びに生命医科学
の教育研究のために多数の動物の尊い
生命が犠牲になっていることを厳粛に

受け止め、動物の霊を追悼するととも
に、生命の尊厳と倫理について啓発す
ることを目的に実施しているもので、
教職員、学生等約150人が参列しま
した。

はじめに有川二郎施設長から追悼の
辞を述べた後、笠原正典研究科長の挨

拶、参列者全員による黙祷・献花を行
いました。最後に有川施設長から適正
な動物実験の実施について、一層の理
解と協力を願う旨の挨拶があり、厳粛
のうちに慰霊式を終了しました。

(医学研究科・医学部)



追悼の辞を述べる有川施設長



笠原研究科長による献花



参列者による献花

総合博物館リニューアルオープン記念企画展示 「ランの王国」を開催

総合博物館のリニューアルオープン後、最初の企画展示として8月5日（金）から9月25日（日）まで「ランの王国」を開催しました。

ラン科は陸上植物の3大科の一つとされ、2万種にも及ぶ種多様性を誇ります。本企画展示では、ラン科の特徴、多様性と分類体系、人間文化との関わりに加え、花と昆虫との共進化、生物間相互作用などを分かりやすく説明し、静的に捉えられがちな植物の動物的な側面を紹介し、植物生態学・進化学への興味を引き出す展示を試みました。また、盗掘や環境破壊などによるラン科植物の減少、絶滅危惧問題についても紹介し、自然保護、環境保全について考える契機となることを目指しました。

8月5日（金）のオープニングセレモニーでは、1階企画展示室前で、礼文町の小野 徹町長、総合博物館の秋元信一資料部長によるテープカットを行い、続いて本展示を担当した当館の高橋英樹教授の解説案内による内覧会を実施しました。ポプラチェンバロの

演奏も行われ、華やかなセレモニーとなりました。

開催期間中は、様々な関連イベントを実施しました。公開セミナーでは「北大植物園のラン科コレクション～歴史と現在～」をテーマに植物園の永谷 工技術専門職員より話がありました。日本のラン科保全活動について礼文島と小笠原諸島での現状、課題についてのセミナーには、ご当地キャラクターの礼文町の「あつもん」と小笠原村の「メグロン」が登場し、会場を楽しませてくれました。他にも、展示にちなみ花と香りをテーマにした演奏会を4回開催し、ポプラチェンバロの音色に包まれる心地よいひと時を過ごしていただくことができました。

今回の展示では、「ボタニカルアート」と「香り」を効果的に活用しました。植物画グループflos societyによる色鮮やかで繊細なボタニカルアートの数々は、企画展示室だけではなく、カフェや多目的スペースからなる知の交差点エリアにも彩りを添えていました。展示室入口では、週替わりでラン

の香りを応用した化粧品や香水の香りで来館者を迎え、日本原産の「フウラン」の昼と夜の香りの違いを実際に体験できる展示コーナーも用意しました。会場内で展示解説を担当するミュージアムマイスター認定コースの学生が、花粉を運ぶ夜行性のスズメガに合わせて、夕方から次第に香り高くなるフウランの性質を説明すると、来館者の皆様に大変関心を持っていただきました。また、博物館ボランティアの協力のもとで実施した調香体験ワークショップでは、フウランの香りをベースに、様々な香りビーズをブレンドするオリジナルのにおい袋作りを行いました。

学内外の多くの方々にお力添えいただき「ランの王国」開催期間中、博物館には5万人を超える来館者を迎えることができました。皆様に心より感謝申し上げます。

（総合博物館）



秋元資料部長（左）と小野町長によるテープカット



内覧会で解説する高橋教授（中央）



公開セミナーに登場したメグロン（左）とあつもん



ミュージアムマイスター認定コースの一環として解説する学生

附属図書館で北海道大学インターンシップ・図書館実習を実施

附属図書館では例年、北海道大学インターンシップ及び図書館実習を実施しています。今年度は9月5日（月）から13日（火）までの、土日を除く7日間の日程で行い、本学インターンシップ実習生1名、藤女子大学から3名、北海道武蔵女子短期大学から1名の図書館実習生、計5名を受け入れました。

本学のインターンシップは、学生の職業意識の育成・向上に寄与すること及び本学に対する理解を深めることを目的とした就業体験です。図書館では、実習生が業務体験を通し、図書館のことをより深く理解し、その後の学生生活において図書館を有効に活用できるようになること、また、学生のニーズを把握することを目指して毎年積極的に受け入れを行っています。一方、他大学からの図書館実習生の受け入れは、学外連携及び社会貢献の役割を果

たすことを目的として実施しています。

実習生は、オリエンテーションに続き、図書・雑誌の受入業務、電子ジャーナル等の管理業務、目録業務、窓口業務、蔵書点検、レファレンス業務、情報リテラシー業務、貴重資料の取り扱い、他大学との文献複写・図書貸借等を行う相互利用業務、機関リポジトリ（HUSCAP）業務など、短期間ながら図書館業務のほぼ全てを体験しました。

最終日には、実習成果のまとめとして実習生によるプレゼンテーションを行いました。「普段利用している図書館についてより知ることができた」「図書館員の専門性の再確認ができた」「図書館の広報の強化を」といった図書館への提言などが発表されました。複数大学による合同実習は、実習生同士良い刺激も受けたようです。今年度も学生と附属図書館双

方にとって、大変意義のあるインターンシップ・実習となりました。

（附属図書館）



職員の説明を受ける実習生



実習生によるプレゼンテーション

北図書館で札幌市立高等学校「職場体験学習」の生徒を受入れ

北図書館では、9月14日（水）に札幌藻岩高等学校2年生3名を「職場体験学習」の実習生として受け入れました。これは、札幌市教育委員会の依頼に基づいて実施するもので、高校生が自分自身を発見し、将来の生き方や進路について考えてもらうことを目的とした「進路探求学習」の一つとして位置づけられています。

当日は、最初に館内ツアーとオリエンテーションを行い、附属図書館の概要や北図書館の役割等を説明しました。その後の体験実習では、カウンターで

の貸出・返却業務をはじめ、図書の配架（本を棚に並べる）、蔵書点検（本の棚卸し）、図書に透明なフィルムカバーを貼るブッカー掛け、レファレンス（調べものの悩み相談受付）など、多様な業務を経験してもらいました。また実習の最後には、新入生向けの歓迎イベントの企画を考えるという課題を設定し、イベントの企画案をプレゼンテーションしてもらいました。ここでは、高校生ならではの視点から様々なアイデアが飛び出し、職員の刺激にもなりました。

参加した高校生からは「北図書館の積層書庫に驚いた」「こんなに色々な仕事がある大学図書館にあるとは知らなかった」などの感想が寄せられました。

（附属図書館）



カウンター業務



配架作業



ブッカー掛け完成



プレゼンテーションの様子

附属図書館が第1回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催

附属図書館は、研究戦略室、大学力強化推進本部、高等教育研修センターとの共催で、9月15日（木）、医学部フラテホールにおいて、第1回北海道大学の国際競争力強化のためのオープンサイエンスワークショップを開催しました。

ワークショップは、「オープンサイエンスとは何か」をテーマとして、まずオープンサイエンスがどのようなものであるかを知っていただくため、川端和重理事・副学長、富田健市附属図書館事務部長から講演がありました。

その後、新田孝彦附属図書館長を加えた3名でのパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、会場から多くの質問があり、

時間いっぱいまで活発な意見交換が行われました。

（附属図書館）



会場の様子



パネルディスカッションの様子

北海道大学病院で災害医療訓練、CBRNE災害対策訓練を実施

北海道大学病院では、9月14日（水）、医師や看護師、学生ら約300人が参加し、広域大規模災害の発生を想定した第13回北海道大学病院災害医療訓練を実施しました。

訓練は、札幌近郊で大地震が発生し、エレベーターや一部医療機能が停止した状況で傷病者を受け入れるという想定で行われました。

まず、傷病者の緊急度や重傷度によって治療や後方搬送の優先順位を決めるトリアージセンターを外来玄関前と外来ホールに設置し、予めそれぞれに設定された被災状況に応じたメイクを施された90名ほどの模擬被災者を、トリアージタグと呼ばれるタグ（緑、黄、赤、黒の4色）を用いて優先順位を識別し、それぞれの対応センターへ振り分けます。赤タグがつけられた重症者はアメニティホールに搬送され、

担当職員らは声かけをしながら対応の流れを確認しました。DMAT（Disaster Medical Assistance Team）と呼ばれる災害時派遣医療チームも処置治療センター（赤）に配置され、同センター担当の医師・看護師等と連携を行いました。また、処置治療センター以外にも、本部機能、医療機器や模擬被災者の搬送、ボランティアの受け入れ、被災者の安否確認対応などの訓練も行われました。約1時間にわたる訓練は、寶金清博病院長による訓練終了の宣言で幕を閉じました。

また、9月16日（金）には、放射性物質、生化学物質などによる災害やテロの発生を想定したCBRNE（Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosives）災害対策訓練も実施されました。

訓練には約50人が参加し、脱衣テン

ト、除染テント等を設置し、防護服を着用した医師・看護師が、傷病者の到着から汚染の除去、病院内へ搬送するまでの手順を確認しました。

このような大がかりな訓練を定期的に行うことにより、職員の危機意識の向上と、実際の災害直面時に適切な対応が可能となることが期待されます。

（北海道大学病院）



処置治療センター（赤）の様子（災害医療訓練）



災害対策本部で指示を出す寶金病院長（災害医療訓練）



一次トリアージセンターの様子（災害医療訓練）



除染テント内の様子（CBRNE災害対策訓練）

工学研究院で「第10回八大学工学部長会議」及び「第132回八大学工学関連研究科長等会議」を開催

9月30日（金）、京王プラザホテル札幌において、本学が幹事校となり第10回八大学工学部長会議及び第132回八大学工学関連研究科長等会議を開催しました。

工学部長会議には東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び本学の八大学の工学部長等28名、工学関連研究科長等会議には、八大学の工学系研究科長等71名が出席したほか、文部科学省高等教育局の土生木茂雄視学官及び同局専門教育課の小野隆彦科学・技術教育係長並びに経済産業省産業技術

環境局産業技術政策課の渡邊政嘉課長にご臨席いただきました。

工学部長会議では北村隆行京都大学工学部長が、工学関連研究科長等会議では本学の名和豊春工学研究院長がそれぞれ議長を務め、「達成度調査の実施結果の活用について」「平成28年度博士フォーラム実施計画について」「提言『外国人材獲得の大競争時代に向けて（仮）』について」といった議題について協議を行い、活発な意見交換がなされました。

また、工学関連研究科長等会議において、文部科学省の土生木視学官から

「高等教育を取り巻く最近の状況について」と題して、理工系人材育成、大学院教育改革、学生への経済支援等について、経済産業省の渡邊課長から「オープンイノベーションとその実践に向けて」と題して、オープンイノベーションに関する我が国における課題や国内外の成功事例等について、それぞれ講演があった後、活発な質疑応答が行われました。その後、情報交換会が行われ、盛会のうちに終了しました。

（工学院・工学研究院・工学部）



幹事校を代表して挨拶する名和工学研究院長



工学関連研究科長等会議の様子



意見交換の様子



講演する土生木視学官



講演する渡邊課長

リーディングプログラム新プログラム生20名を採用



新プログラム生の集合写真

物質科学フロンティアを開拓する Ambitiousリーダー育成プログラム (ALP) は、10月1日付で新プログラム生20名の採用を行いました。これらのプログラム生は、総合化学院、生命科学院、理学院、工学院、環境科学院の関連5専攻の修士課程の学生の中から選抜試験を経て採用されました。プログラム生の採用は今年度で4回目です。本プログラムは総勢61名の大所帯となりました。初年度に採用されたプログラム生は現在博士課程2年になり、来年度末には初めての修了者として社会に送り出すことになります。

9月28日(水)に事務局大会議室で行われた新プログラム生の採用式では、プログラム責任者である新田孝彦理事・副学長より新入生一人ひとりに認定書が授与されました。プログラムコーディネーターである石森浩一郎教授からは、「モチベーション・志が非常に高い学生を採用することができ

た。皆さんには北大全体、あるいは日本全体の期待がかかっている。そのことを意識して、世界を背負って立つような人材となるべく努力してほしい」との激励の言葉が述べられました。採用式に続き、「なぜ科学技術の倫理なのか—科学と市民の望ましい関係をめぐって—」と題した研究倫理セミナーを開催しました。このセミナーでは、応用倫理学が専門である新田理事・副学長による講演が行われました。プログラム生は、研究者自身と社会との間の関係性に対する深い洞察力(内省的知力)を養うことが強く求められます。新プログラム生は、採用式の直後にこのセミナーを受講することにより、それぞれに課せられた期待と責任の重さを自覚する良いきっかけとなりました。

ALPは採択から3年が経過し、現在文部科学省による中間評価が行われています。教員はこれまでの経験から、

効果的な大学院教育を行うための様々なノウハウを大量に蓄積してきました。新プログラム生には、最先端の教育プログラムを最大限に余すことなく活用してほしいと思います。ALPでの活動を通して新プログラム生の大学院生活がより実りあるものになることを心より期待しています。

※ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラム。産業界や学術・研究機関など、様々な領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としている。そのために、「圧倒的専門力」「俯瞰力」「フロンティア開拓力」「国際的実践力」「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供している。

(総合化学院)



採用式の様子



石森プログラムコーディネーターの挨拶の様子



プログラム責任者 新田理事・副学長による研究倫理セミナーの様子

■お知らせ

次期総長の選考日程の決定について

山口佳三総長の任期満了に伴う次期総長の選考日程が、総長選考会議において以下のとおり決定しました。

次期総長は、国立大学法人北海道大学総長選考会議規程に基づき、所定の手続きを経て、12月13日（火）開催の総長選考会議委員の投票により決定されます。

なお、総長選考に関する情報を随時掲載していくための専用サイト（学内限定）を設置しましたので、教職員の皆様はご覧ください。

◆北海道大学ホームページトップ > 教職員向け > [総長選考情報サイト（学内限定）](#)

（総務企画部総務課）

日 程	
項 目	期 日
候補者の推薦開始	11月7日（月）
候補者の推薦締切	11月14日（月）
公開質疑（意向聴取対象者向け）	11月30日（水）
意向聴取（意向聴取対象者による投票）	12月5日（月）
意向聴取（意向聴取対象者による投票）《予備日》	12月6日（火）
総長予定者の決定（総長選考会議委員による投票）	12月13日（火）

医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会の共同事業の一つとして、昭和56年度から実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひいては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。

実施内容は次のとおりです。

1 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る平成28年6月診療分の診療報酬明細書（レセプト）による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員に係る請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

2 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

3 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、平成28年11月末日までに各部局等の共済事務担当係から行われる予定です。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士101人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士6人に対する学位記授与式を、9月26日(月)に学術交流会館第一会議室において挙行了しました。

式では山口佳三総長から出席者全員に学位記が手渡され、最後は北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)



学位記授与の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名	
	氏名			
博士(文学)	きた 北 郷 彩	あや	アリストテレス『トピカ』A巻における弁証術研究 主査：教授 千葉 恵	
	ふる 古 館 恵	すけ 介	経験の根源－トマス・アクィナスの形而上学 主査：准教授 近藤 智彦	
	リュウ 劉	ヨウ 洋	1980年代以降の中華圏映画における批評性 主査：教授 応 雄	
	いな 稲 葉 美	さと 里	連結による協力問題解決メカニズムの解明 主査：准教授 高橋 伸幸	
	ゴ 伍	カ 嘉	セイ 誠	Well-being and Religion in Hong Kong: From the Perspectives of Welfare, Social Capital, and Subjective Well-being (香港におけるウェルビーイングと宗教－福祉, ソーシャル・キャピタル, 主観的幸福感の視点から) 主査：教授 櫻井 義秀
	なばた 名畑 (新原) 理津子	りつこ		直観像の生起メカニズムに関する研究－直観像素質者の視空間記憶能力と脳構造に注目して－ 主査：准教授 小川 健二
博士(法学)	ゴ 呉	イツ 逸 ネイ 寧	中国法における裁判所による違約金増減の運用と理念－日本の債権法改正に寄せて－ 主査：教授 會澤 恒	
博士(医学)	あし 芦 立 嘉	よし とも 智	近赤外線カメラを使用した術中胸管造影の研究 主査：教授 丸藤 哲	
	あ 阿 部 紘	ひろ たけ 丈	免疫原性の高いマウス乳がん細胞株4T1-Sの同定 主査：教授 山下 啓子	
	いずみ 泉	けん 健 たろう 太郎	自己抗体プロファイルは水疱性類天疱瘡における炎症の差異を生じさせる 主査：教授 石田 晋	
	う 右 近 可	かな 奈 子	動体追跡装置における体内複数マークを用いた高精度ゲーティング照射法の検討 主査：教授 秋田 弘俊	
	き 木 村 孔	ひろ かず 一	気管支喘息における副鼻腔病変の評価、並びに関連する因子、バイオマーカーに関する研究 主査：教授 渥美 達也	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名	
	氏名			
博士（医学）	すぎもとまさゆき 杉本正志		分子イメージングを用いたスフィンゴミエリンおよびスフィンゴミエリン合成酵素2の生理機能に関する研究 主査：教授 玉木 長良	
	たかしなちみ紗 高階知紗		正常耐糖能日本人成人における肥満および糖代謝と血中アミノ酸の関連 主査：教授 坂本 直哉	
	たかのひろのぶ 高野博信		EphA 4 をターゲットとした膀胱癌新規予後予測バイオマーカーおよび新規治療法の開発に関する研究 主査：教授 武富 紹信	
	テイ 鄭	ビョウ 森	Histochemical analysis of a hyarulonnan receptor LYVE-1 in the reticulo-endothelial system (細網内皮系におけるヒアルロン酸受容体LYVE-1の組織化学的解析) 主査：教授 渡邊 雅彦	
博士（獣医学）	ギョヨンキム Kiyeon KIM		A study on the population genetics of influenza A viruses (A型インフルエンザウイルスの集団遺伝学に関する研究) 主査：教授 伊藤 公人	
	デルゲルモロン DELGERMURUN ドゥカラ DUGAR		5-HT release from chemoreceptor cells in the chicken thoracic aorta (ニワトリ胸部大動脈の化学受容器細胞からの5-HT放出機構に関する研究) 主査：准教授 乙黒 兼一	
	ネスタ Nesta ボルティサム Bortey-Sam		Environmental contamination in Ghana: Environmental fate and risk assessment of heavy metals and polycyclic aromatic hydrocarbons (ガーナにおける環境汚染：金属と多環芳香族炭化水素の環境動態とリスクアセスメント) 主査：教授 石塚 真由美	
	マービンアルデツア Marvin Ardeza ビラヌエバ Villanueva		Epidemiological investigation of pathogenic <i>Leptospira</i> spp. harbored by water buffalo (<i>Bubalis bubalis</i>) in the Philippines (フィリピンの水牛 (<i>Bubalis bubalis</i>) が保有する病原性レプトスピラの疫学的研究) 主査：教授 鈴木 定彦	
	モハメドソビヒ Mohamed Sobhy ハッサンエルフケー Hassan Elfeky		Novel suppressive action of adiponectin on LPS- and HMGB1-induced inflammatory responses (脂肪細胞分泌因子アディポネクチンの細菌内毒素LPSおよび核内タンパク質HMGB1に因る炎症に対する新規抑制作用) 主査：教授 木村 和弘	
博士（情報科学）	ほんしょうまさや 本庄将也		粒子群最適化に基づく巡回セールスマン問題に対する近似解法に関する研究 主査：教授 山本 雅人	
博士（工学）	アイエレキディスト Ayele Kidist モーゲス Moges		Effect of off-stoichiometry on the half-metallic character of quaternary Heusler alloy Co ₂ (Mn,Fe) Si (4元ホイスラー合金Co ₂ (Mn,Fe) Siのハーフメタル性に対する非化学量論的組成の影響) 主査：教授 植村 哲也	
	イン 殷	ショウ 翔	Study on a graphene three-branch nano-junction device and its application to Boolean logic gates (グラフェン3分岐ナノ接合デバイスとそのブール論理ゲート応用に関する研究) 主査：教授 葛西 誠也	
	ジョ 曹	ミン 民	ギョ 圭	Silicon nanodot array device for high functionality (単電子ナノドットアレイデバイスの高機能化に関する研究) 主査：教授 高橋 庸夫
博士（情報科学）	たか 高	はしりょうすけ 橋亮輔	Study on High-Speed Measurement of Cell Rheology Using Atomic Force Microscopy (原子間力顕微鏡による細胞レオロジー測定の高速化に関する研究) 主査：教授 岡嶋 孝治	
博士（工学）	ジョ 徐	シン 昕	Study on Optimal Spoken Dialogue System for Robust Information Search in the Real World (実環境下におけるロバスト情報検索のための最適音声対話システムに関する研究) 主査：教授 宮永 喜一	
博士（情報科学）	チョウ 張	エイ 永	セイ 生	Study of a View-based 3-D Object Retrieval Method for 3-D Object Reconstruction (3次元再構成のためのビューベース3Dオブジェクト復元に関する研究) 主査：教授 山本 強

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (情報科学)	いとう やす ひさ久 伊藤 泰久	A Study on Electromagnetic Field Analysis using Non-conforming Finite Element and Homogenization Methods (非適合要素および均質化を用いた電磁界解析に関する研究) 主査：教授 五十嵐 一
博士 (水産科学)	アハマド Achmad ファルディン Fachruddin サ Syah	Spatial modeling of Pacific saury (<i>Cololabis saira</i>) potential fishing zones in the western North Pacific using remotely sensed data (リモートセンシングを用いた西部北太平洋におけるサンマの潜在的漁場の空間モデリング) 主査：教授 綿貫 豊
	キム 金 ウン 銀 ホ 好	音響手法を用いた北海道噴火湾周辺における動物プランクトン群集の生態に関する研究 主査：教授 向井 徹
	さくら い しん た 櫻 井 慎 大	Phylogenetic relationships of the family Congridae and related taxa (Teleostei: Anguilliformes) (アナゴ科およびその近縁群の系統分類学的研究) 主査：特任教授 矢部 衛
	ささき よし こ 佐々木 嘉子	Comparative Osteology and Myology of Baikalian Sculpins (Acanthopterygii: Cottiformes) and Their Phylogenetic Relationships (バイカル湖産カジカ類の骨格系と筋肉系の比較形態学および系統類縁関係に関する研究) 主査：教授 今村 央
	ヌルヒダユ ビンティ Nurhidayu Binti アル サリ Al saari	A strategic approach for optimization of fermentative hydrogen production of marine <i>Vibrionaceae</i> species using Design of Experiments (DOE) (実験計画法に基づく海洋性ビブリオの水素生産の最適化) 主査：教授 尾島 孝男
博士 (環境科学)	クオン 権 テ 台 オ 五	Interaction between plant colonizers and ectomycorrhizal fungi through nitrogen transfer in the early stages of volcanic succession (火山遷移初期段階における窒素移動を介した定着植物と菌根菌の相互作用) 主査：教授 露崎 史朗
	エリック プラセティオ Erik Prasetyo	Synthesis of a humic acid-silica gel as a low cost adsorbent for uranium and thorium removal from wastewater (汚染水からウランとトリウムを除去する経済的な吸着剤としてのフミン酸-シリカゲル複合体の合成) 主査：准教授 豊田 和弘
	ティアギ プーナム Tyagi Poonam	Hydroxy fatty acids as fingerprint biomarkers for the atmospheric transport of soil microorganisms and terrestrial higher plant metabolites (土壌微生物と陸上高等植物代謝物質の大気輸送バイオマーカーとしてのヒドロキシ脂肪酸) 主査：准教授 関 宰
	ディヴィヤヴァニ Divyavani	Identification of hydroxy and keto-dicarboxylic acids in remote marine aerosols: Implications for photochemical formation and transformation of water-soluble organic aerosols (外洋エアロゾル中のヒドロキシおよびケトジカルボン酸の同定：水溶性有機エアロゾルの光化学的生成と変質への関係) 主査：准教授 関 宰
	ふじ よし れい 藤 吉 麗	Study on nitrogen cycle with special reference to spatial variations in plant and soil nitrogen isotope ratios at forest-grassland boundary in northern Mongolia (モンゴル北部森林-草原境界域における植物と土壌の窒素同位体比を用いた窒素サイクルの研究) 主査：教授 杉本 敦子
	ホーク エムディ Haque Md. モザメル Mozammel	Molecular compositions and seasonal variations of organic compounds in atmospheric aerosols from subarctic Alaska (亜北極アラスカにおける大気エアロゾル中の有機化合物組成と季節変動) 主査：准教授 関 宰

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（環境科学）	あま がい ゆき ひろ 雨 谷 教 弘		Clarification of vegetation dynamics in alpine ecosystems under climate change: Responses of <i>Pinus pumila</i> and snow-meadow communities (気候変動下における高山生態系の植生動態の解明：ハイマツと湿生草原群落の応答) 主査：准教授 工藤 岳
	あ べ ひろ や 阿 部 博 哉		亜寒帯汽水湖における低次生産過程に果たす基礎生産者の多様性と懸濁物食性二枚貝の役割に関する研究 - 現地観測と数値モデルの融合 - 主査：特任教授 門谷 茂
	シャオ 花 メイ 邵 花 梅		Study on characteristics and variations of <i>Saccharina japonica</i> forests distribution around the Tsugaru Strait by acoustic method (音響手法を用いた津軽海峡周辺のマコンブ場の分布特性および変動に関する研究) 主査：教授 宮下 和士
博士（理学）	リュウ ヨウ 劉 暉		Low Dimensional Homology of Artin Groups (アルティン群の低次ホモロジー) 主査：准教授 秋田 利之
	さい とう ひろ あき 齊 藤 大 晶		原始太陽系星雲中で集積する火星における混成型原始大気形成と火星内部への水分配 主査：教授 倉本 圭
	ふじ さわ いっ ぺい 藤 澤 逸 平		Study on Kerr/Fluid Duality and Singularity of Solutions to the Fluid Equation (カー解と流体の双対性および流体方程式における解の特異点に関する研究) 主査：准教授 中山 隆一
	あん どう たく と 安 藤 卓 人		Organic biogeochemical study on marine ecosystems in the mid-Cretaceous oceanic anoxic events in SE France and Hokkaido, Japan. (南東フランスおよび北海道における白亜紀海洋無酸素事変期の海洋生態系の生物地球化学的研究) 主査：准教授 沢田 健
	おか もと あゆみ 岡 本 あゆみ		Physical Understanding of Dynamics in a Subduction Channel: an Approach based on Analyses of Pressure-Temperature Paths of Tectonic Blocks in a Mélange and Frictional Experiments of Mafic Rocks (沈み込みチャネルのダイナミクスの物理的理解：メランジュ中の構造岩塊の温度-圧力履歴の解析と苦鉄質岩の摩擦実験に基づくアプローチ) 主査：教授 竹下 徹
	デアスイ アリサ Deasy Arisa		Large and Repeating Slow Slip Events in the Izu-Bonin Arc from Space Geodetic Data (伊豆小笠原弧における巨大スロー地震および繰り返しスロー地震の宇宙測地学的研究) 主査：教授 日置 幸介
モ ハ メ ド アミン AMIN モ ハ メ ド MOHAMMED モ ハ メ ド MOHAMMED シャラビ SHALABI		Molecular evolutionary study on the Japanese weasel (<i>Mustela itatsi</i>) and the Siberian weasel (<i>M. sibirica</i>), based on complete mitochondrial genome sequences (ミトコンドリアゲノム全配列に基づくニホンイタチ (<i>Mustela itatsi</i>) およびシベリアイタチ (<i>M. sibirica</i>) の分子進化学的研究) 主査：教授 増田 隆一	
博士（農学）	アンナ ハイラニ Anna Hairani		Effect of biochar application on soil and plant (バイオ炭施用が土壌および植物生育に及ぼす効果) 主査：准教授 渡部 敏裕
	オム ジ ホム 巖 智 凡		韓国における農業法人の形成・展開とその組織原理 - 「作目班」型農業法人からの脱却 - 主査：教授 柳村 俊介
	グレン ロバート Glenn Robert バーンス BURNS		WWOOF activities in Japan: Potential for edifying and non-monetary tourism (日本のWWOOF活動：啓発的・非貨幣的ツーリズムのポテンシャル) 主査：教授 近藤 巧
	ソン コーム Sorngom ウォラワン Worawan		Analysis on expression controlling mechanism of AVR-Pia, an avirulence effector in <i>Magnaporthe oryzae</i> (イネいもち病菌の非病原性エフェクター AVR-Pia の発現制御メカニズムの解析) 主査：教授 曾根 輝雄

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博士論文名
	氏名		
博士（農学）	ユディステイラ Yudistira ワヒユクルニア Wahyu Kurnia		Identification, molecular characterization, and application of a novel virus isolated from mosquito larvae in Okushiri Island, Japan (北海道奥尻島において蚊幼虫から分離された新規ウイルスの同定, 性状解析および利用) 主査: 教授 伴戸 久徳
	イ季 イナミ	ヨシノミ ヨシノミ	Improvement of bile acid-induced disorders by synbiotics (胆汁酸誘導性病態に及ぼすシンバイオティクスの改善作用) 主査: 准教授 石塚 敏
	オウ王	ライ磊	(Trifluoromethyl) phenyldiazirines in photoaffinity labeling: Improved synthesis, functionalization, and application (トリフルオロメチルジアジリンによる光アフィニティーラベル: 改良合成, 機能化およびその利用) 主査: 准教授 橋本 誠
	チョウ張	ギョウ暁 ホウ萌	Performance of hybrid subsurface flow constructed wetland system used for high content wastewater treatment (高濃度排水の浄化処理を行うハイブリッド伏流式人工湿地システムの性能に関する研究) 主査: 教授 井上 京
	フィオレンタ Fiolenta マルバンダ Marpaung		Quantitative evaluation of radiation change and vegetation recovery during and after fires in tropical peatland (熱帯泥炭地における火災による放射環境の変化と火災後の植生回復の定量的評価) 主査: 教授 平野 高司
	ユウ游	ショウ翔 ウ宇	Preparation of lignin-based activated carbon fibers and their application to electrodes for electric double layer capacitor (リグニンを原料とする活性炭素繊維の調製と電気二重層キャパシタ用電極への応用) 主査: 教授 浦木 康光
	リ季	ベン鵬 シャン翔	Adsorption of Sodium Dodecyl Sulfate and Dodecyl Pyridinium Chloride on Silica (ドデシル硫酸ナトリウムとドデシルピリジニウムクロリドのシリカへの吸着) 主査: 教授 石黒 宗秀
博士（生命科学）	アマトウナドゥ Amrutha スダカルアムルタ A S		Structure-Property Relationship Studies of the Photoresponsive Inhibitors of Kinesin-Microtubule Motor System (キネシン-微小管モーター系に対する光応答性阻害剤の構造-物性相関研究) 主査: 教授 玉置 信之
	グオ郭	ホン宏 レイ磊	Establishment of Microelectrode Technique for Detecting the Spatial Distribution of Electric Potential in Hydrogels (ハイドロゲル内部における電位の空間分布を計測するための微小電極法の構築) 主査: 教授 龔 劍萍
	ザン張	フィ慧 ジェ洁	Development of Tough Hydrogels Based on Amphiphilic Tri-block Copolymers (両親媒性トリブロックコポリマーを用いた強靱ハイドロゲルの開発) 主査: 教授 龔 劍萍
	チン陳	メエ美 ヨウ蓉	Molecular basis of transsulfursome for Cys-tRNA ^{Cys} synthesis in indirect pathway (間接経路を用いたCys-tRNA ^{Cys} 合成複合体transsulfursomeの分子基盤) 主査: 教授 姚 閔
	レン任	ジュン俊 リン嶺	Characterization of the Rho-related Rop/RAC GTPase and a plasma membrane protein in cell polarity regulation in the moss <i>Physcomitrella patens</i> (細胞極性制御に関わるヒメツリガネゴケRop/Rac Gタンパク質と膜タンパク質の解析) 主査: 教授 藤田 知道
博士（薬科学）	ジャハンムスト JAHAN MST ルファナ LUBNA		Characterization and single chain Fv construction of neutralizing antibody to measles virus (麻疹ウイルスに対する中和抗体の機能評価と一本鎖Fv断片の構築) 主査: 教授 前仲 勝実
博士（教育学）	さとう 佐藤	よういちろう 洋一郎	全身性動作における体重心移動のダイナミクス 主査: 准教授 保延 光一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（国際広報メディア）	すぎ 江 聡 子 杉 江 聡 子	中国語ブレンド型学習の実践と混合研究法による評価－遠隔交流が創る学びの経験を学習者視点で解釈する－	主査：准教授 田邊 鉄
	なか 中 村 香恵子 中 村 香恵子	教師の変容と環境要因－小学校教師の言語教師認知研究	主査：教授 河合 靖
博士（保健科学）	とう 唐 明 輝 唐 明 輝	Spectral Analysis of Fluctuation in Time Series Spin-echo MR Signal of Human Brain and its Application: Evaluation of Vasomotor Function of Arterioles (MRIにおける Spin-echo 時系列信号揺らぎの周波数解析とその応用：大脳細動脈機能の評価)	主査：教授 加藤 千恵次
博士（看護学）	みや 宮 田 久美子 宮 田 久美子	遷延性意識障害患者の生活行動の獲得に向けた看護技術の開発－自立姿勢獲得への端座位援助の効果－	主査：教授 傳田 健三
博士（工学）	むら 村 井 亮 太 村 井 亮 太	Massive Injection of Auxiliary Reducing Agent at Blast Furnace for the Sustainable Development (持続可能な発展を目指した高炉への補助還元材多量吹込み)	主査：教授 秋山 友宏
	yon 雅 穎 瓊 雅 穎 瓊	Copper Fine Particles for Electroconductive Materials (電気導電性材料用銅微粒子)	主査：教授 米澤 徹
	yun 尹 晟 煥 尹 晟 煥	Research on Coupling Mechanism of Primary Acoustic Instability in Downward-Propagating Flames (下方伝播火炎における燃焼と音響学的不安定性の相互作用に関する研究)	主査：教授 藤田 修
	Achmad Syaifudin アハメッド シヤイフディン Syaifudin	Development of balloon-expandable stents for treatment of eccentric plaque considering surface roughening (偏心プラークのための表面性状を考慮したバルーン拡張ステントに関する研究)	主査：教授 佐々木 克彦
	ro 呂 吉 鑫 呂 吉 鑫	Scan Matching and SLAM for Mobile Robot in Indoor Environment (屋内移動ロボットのスキャンマッチングとSLAM)	主査：教授 小林 幸徳
	aka 赤 澤 真 之 赤 澤 真 之	分散協調型コジェネレーションネットワーク概念における二酸化炭素削減効果，社会コストおよび需要家選択解析	主査：教授 近久 武美
	kawa 川 村 慎 一 川 村 慎 一	フィルタバントシステムの開発と原子力緊急時マネジメントの改善に関する研究	主査：特任教授 奈良林 直
	take 武 田 晋 武 田 晋	金属基板を使用した高性能大型中性子集束スーパーミラーの開発	主査：特任教授 古坂 道弘
	Supapap Patsinghasanee スバパーブ パシンハサネー Patsinghasanee	Experimental and numerical investigations on cantilever failures for cohesive riverbanks (実験および数値計算による粘着性ひさし状河岸の浸食・崩落に関する研究)	主査：教授 清水 康行
	Ahmed Attia Mahmoud Drar アハメッド アティヤ マハムード ドラール Mahmoud Drar	Fatigue analysis of RC slabs with plain bars and FRP strengthening based on bridging stress degradation concept (架橋応力劣化に基づく丸鋼鉄筋床版とFRP補強効果の疲労解析)	主査：教授 松本 高志
Onnicha Rongviriyapanich オンニチャ ロンビリヤパーニチ RONGVIRIYAPANICH	Mesoscale damage assessment of cementitious material exposed to high temperature (高温を受けたセメント系材料の準微視的損傷評価)	主査：准教授 佐藤 靖彦	
kan 干 治 平 干 治 平	Seismic Performance of Base-isolated Bridges under Low Temperature in Snow Cold Region (積雪寒冷地における低温時免震橋梁の地震応答性状に関する研究)	主査：教授 松本 高志	

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	グエン ティ ハイ Nguyen Thi Hai イエン Yen	Verification of practical effectiveness of various applications of electrochemical chloride extractions for cement concrete (種々の条件下でセメントコンクリートに適用した電気化学的脱塩の有効性評価に関する研究) 主査：教授 横田 弘
	ホン ソン ミン 洪 性 敏	Development of A Travel Speed Estimation Model for Effective Snow Removal Operations on Urban Arterial Roads (街路における効率的な除雪作業のための旅行速度推定モデルに関する研究) 主査：教授 萩原 亨
	ワン 汪 汪 毅	Experimental and analytical study in meso-scale on internal frost damage of mortar under effects of sodium chloride (塩化ナトリウムが存在する場合の凍害に関する準微視的な実験と解析) 主査：教授 上田 多門
	ウェンドクニジョン Wendkouni John ステイブ カボレ Steve Kabore	Design of the process for the production of nitrogen slow release fertilizer from human urine (人尿からの緩効性窒素肥料製造プロセスの開発) 主査：教授 船水 尚行
	ガマララレゲダラ Gamaralale Gedara ニルマリニサンセラ Nirmali Nisansala アマールコン Amarakoon	Development of sustainable ground improvement methods using biochemical techniques (生物化学的手法による持続可能な地盤改良工法の開発) 主査：教授 川崎 了
	ポールクラレンス Paul Clarence マグダエル Magdael フランシスコ Francisco	Transformation of iron oxide and hydroxide phases and its effects on contaminant mobility (鉄酸化物および水酸化物の相変換と汚染物質の移行に対する影響) 主査：教授 佐藤 努
ラリタ バインガム Lalita Baingam	Characterization and Modeling of Alkali-Silica Reaction of Reactive Siliceous Materials in Conducting Model and Mortar Experiments (モデルおよびモルタル実験によるアルカリシリカ反応のキャラクタリゼーションおよびモデル化) 主査：教授 名和 豊春	
博士（総合化学）	ロリ シェン Lori Shayne アラモ ブサ Alamo Busa	Development of Microfluidic Paper-based Devices for Food Analysis (食品分析のためのマイクロ流体ペーパー分析デバイスの開発) 主査：教授 佐藤 敏文
	サイード Saeed モハンマディ Mohammadi	Development of Microfluidic Paper-Based Analytical Devices (μ PADs) for Detection of Biomarkers (バイオマーカー検出のためのマイクロ流体ペーパー分析デバイスの開発) 主査：教授 高木 睦
博士（理学）	ムハンマドシラズル Md. Sirajul イスラム Islam	Study on Microtubule Dynamics Regulated by Exogenous Factors (外性因子により制御される微小管ダイナミクスに関する研究) 主査：教授 武田 定
	ウェイ ジン ジェン 魏 金 建	Dynamic Process of Gold Nanoparticle Assembly using Fluorinated Surface Ligands in Solutions (溶液中におけるフッ素化リガンド分子修飾金ナノ粒子の動的な自己集合プロセスに関する研究) 主査：教授 佐田 和己
	うちむらやすと 内村康人	Challenges toward the World Record of the Longest C-C Bond: Expandability of the Ultimate Covalent Bond and its Application to the C-O Bond (世界最長の炭素-炭素結合への挑戦：究極的共有結合の伸長性と炭素-酸素結合への展開) 主査：教授 谷野 圭持
	ブラシャントゴバル Prashant Gopal グデアングアディ Gudeangadi	Studies on π -Stacked Helical Polyurethane and Related Small Molecules (π -スタック型らせん状ポリウレタンおよび関連低分子化合物の研究) 主査：教授 鈴木 孝紀

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (理学)	サンゲータ Sangeetha スウェニバサ シェティ Srinivasa Shetty	Synthesis of 1,2-Glycosidic Polymers via Ring-Opening Condensation Polymerization of Cyclic Sulfite (環状サルファイトの開環縮合重合による1,2-グリコシド型ポリマーの合成) 主査:教授 福岡 淳
	リ 李 ショウ イ 瑋	Studies on Highly Localized Excitation of PbS Quantum Dots on Metal Nanostructures (金属ナノ構造上におけるPbS量子ドットの局在励起に関する研究) 主査:教授 稲辺 保
博士 (工学)	ソンドモイー Sandomoyee コニカ モロミ Konika Moromi	Direct Synthesis of Chemicals by Acceptorless Dehydrogenation of Alcohols and Cyclic Amines with supported Pt Catalysts (担持白金触媒によるアルコール・環状アミンの脱水素を利用した化学品の直接合成) 主査:教授 増田 隆夫
	みや の ま り 理 宮 野 真 理	表面修飾シリコンナノ粒子の合成と光物性に関する研究 主査:教授 安住 和久

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士 (獣医学)	キム テ ヨン 金 泰 延	Studies on neuronal function using voltage-gated Ca ²⁺ channel Cav2.1 α_1 subunit mutant mice (Cav2.1チャンネルの神経機能における役割に関する研究 - Cav2.1 α_1 遺伝子変異マウスを用いて -) 主査:教授 木村 享史
博士 (環境科学)	おお たき 大 瀧 みちる	Evaluation and characterization of leaf litter decomposition patterns in ecological succession (生態遷移におけるリター分解パターンの評価と特徴) 主査:教授 露崎 史朗
博士 (理学)	もり した ゆう 森 下 遊	Measuring precision, temporal decorrelation, and integrative analysis of InSAR with different frequency bands (異周波数帯の干渉SARの計測精度、時間干渉性低下及び統合的解析手法に関する研究) 主査:教授 古屋 正人
博士 (農学)	き むら たかし 木 村 誇	沖積錐の形状解析に基づく山地流域の土砂流出過程に関する研究 主査:特任教授 丸谷 知己
博士 (工学)	うわ ぼ とも ゆき 上 羽 智 之	高速炉燃料集合体のピンバンドル変形挙動に関する研究 主査:教授 鶴飼 重治
	エムディ アタオウ MD. Ataur ラハマン Rahman	Experimental Investigation and Analytical Modeling of Masonry Wall for In-Plane Shear Strength after Strengthening by Various FRPs (種々のFRPで補強された組積壁構造の面内せん断耐力に関する実験的研究と解析モデル) 主査:教授 上田 多門

レクリエーション

職員卓球大会の開催 ー団体戦・ペア・個人戦ー

8月29日（月）から9月8日（木）にかけて、学内教職員卓球大会を小体育館で開催しました。

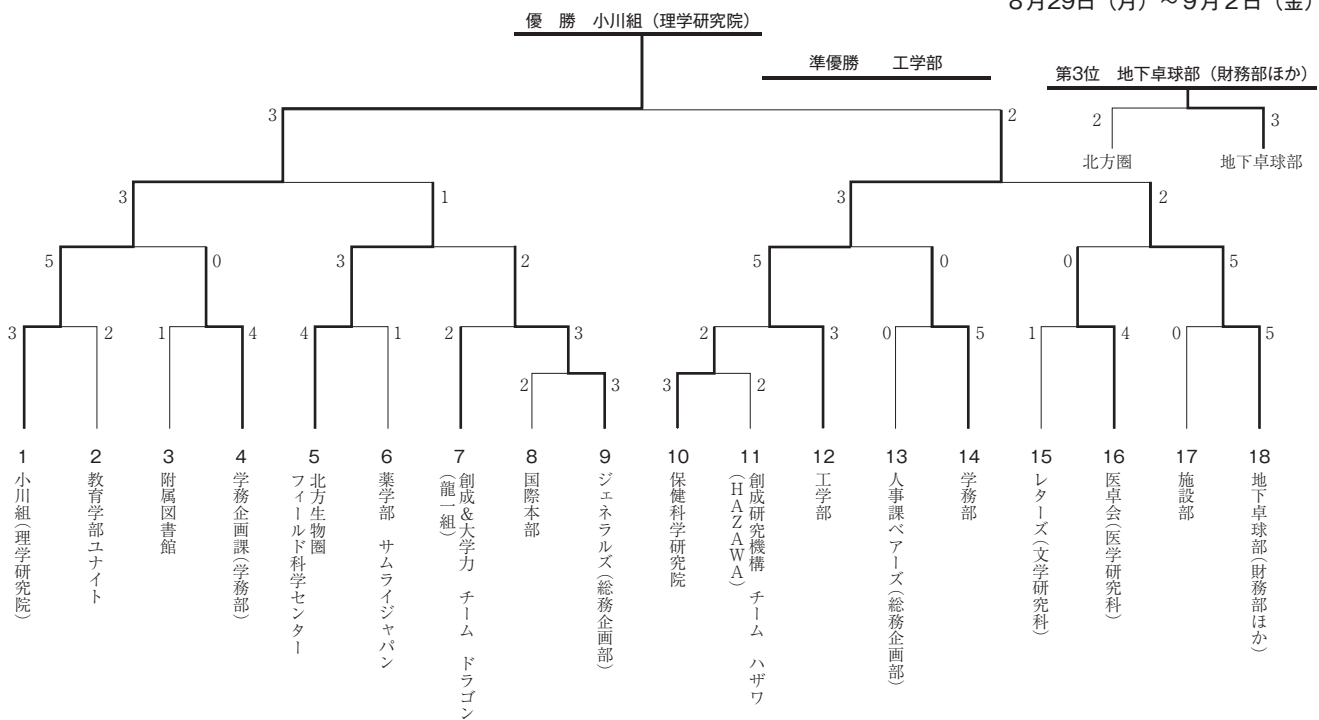
団体戦に18チーム175名、ペア2クラスに15ペア、個人戦2クラスに13名が参加し、声援のなか熱戦が繰り広げられました。

なお、対戦結果は以下のとおりです。

（職員卓球部）

平成28年度 北大教職員卓球大会（団体戦）

8月29日（月）～9月2日（金）



個人戦：9月5日（月）～7日（水）

クラス	優勝	準優勝	第3位
一般A	窪田 雅也 (環境配慮)	武田 裕二 (研究支援)	杉森 博行 (保健)
一般B	高橋 英嗣 (工)	高山 大樹 (工・情報)	天野 愛 (北方圏)

ペア：9月7日（水）・8日（木）

クラス	優勝	準優勝	第3位
フリー	平松・竹田 (厚生労務)	内野・富田 (北方圏)	山田・大場 (北方圏)
超ビギナー	前島・福井 (人事)	宮崎・西村 (人事)	渡部・荒井 (学務企画&学生支援)



大会風景



超ビギナーペア優勝 前島・福井ペア

平成28年度 第46回 札幌社会人サッカーリーグに出場

5月8日（日）～9月18日（日）の日程で平成28年度 第46回 札幌社会人サッカーリーグに出場しました。

最上位のSリーグから新規加入チームによるライラックリーグまで、全11部・106チームで構成されるリーグ戦で、教職員サッカークラブはBリーグ3部に所属し、6勝1敗2分の3位で全日程を終えました。対戦成績は以下のとおりです。

また、夏場のサッカーだけでなく、11～3月にかけては屋内でフットサルの活動もしており、札幌社会人フットサルリーグにも参加しています。サッカーやフットサルの活動の詳細が知りたい方は、ホームページでもご確認いただけます。興味のある方は、お近くの部員かホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

◆<http://hokudaikyousyokuinsc.web.fc2.com/>

(教職員サッカークラブ)

5月8日	教職員サッカークラブ	5 - 0	札幌四十雀サッカークラブ
5月29日	教職員サッカークラブ	7 - 0	もつつ
6月26日	教職員サッカークラブ	7 - 0	北ガスFC
7月17日	教職員サッカークラブ	1 - 1	Network
7月31日	教職員サッカークラブ	1 - 1	薄野倶楽部
8月7日	教職員サッカークラブ	1 - 4	AFCアヤックス
8月28日	教職員サッカークラブ	3 - 1	FC XEROX
9月11日	教職員サッカークラブ	3 - 0	AFC.Brave
9月18日	教職員サッカークラブ	7 - 0	FC大将



集合写真

平成28年度学内教職員フットサル大会の開催

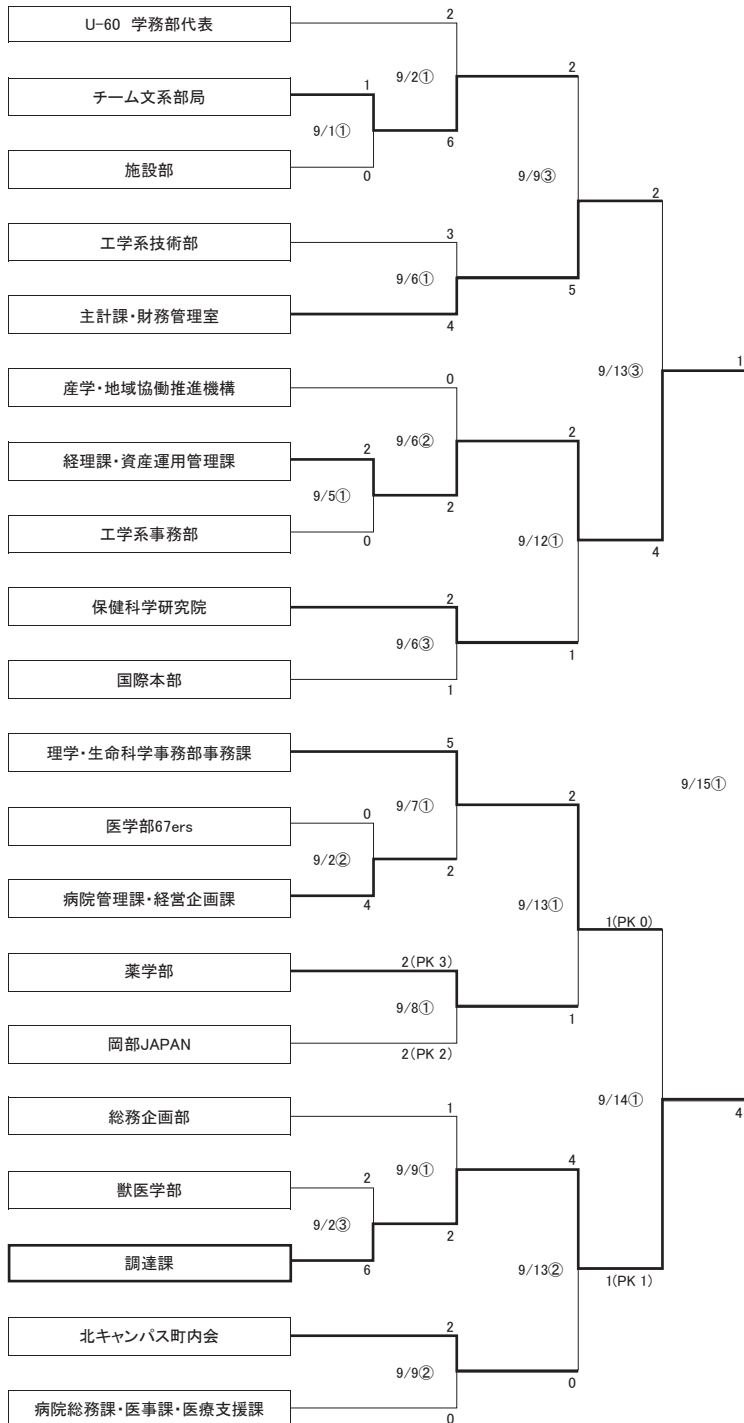
9月1日(木)から15日(木)にかけて、学内教職員フットサル大会を第2体育館にて開催しました。学内より20チームが参加し、連日熱戦が繰り広げられました。

決勝戦では、調達課が勝利し、優勝を飾っています。対戦結果は以下のとおりです。

また、教職員サッカークラブは入部・見学を随時受け付けています。興味のある方は、お近くの部員、もしくはホームページの問い合わせ先までご連絡ください。

◆<http://hokudaikyousyokuinsec.web.fc2.com/>

(教職員サッカークラブ)



試合開始時間
①17:15～
②17:40～
③18:05～



決勝戦の様子

調達課



優勝チーム 調達課

諸会議の開催状況

役員会（平成28年9月7日）

議案・職員表彰制度の見直しについて

- 協議事項・Integrated Science Programに係る奨学制度の制定について
- ・情報セキュリティ対策と個人情報保護の一元的管理について
 - ・諸規則の制定及び一部改正について
 - ・就業規則関連規程の一部改正について

報告事項・次期総長の選考日程等について

- ・北海道大学緑のピアガーデン2016の実施報告について
 - ・平成28年度オープンキャンパス及び北海道大学進学相談会（東京会場）開催結果について
 - ・医理工学院，国際感染症学院，国際食資源学院の設置審査の結果について
 - ・教育関係共同利用拠点の認定について
 - ・平成28年人事院給与勧告について
 - ・障害者の雇用状況等について
 - ・超過勤務実績について
 - ・会計検査院第5局による会計実地検査の実施について
 - ・平成29年度概算要求について
 - ・平成28年度補正予算（第2号）について
-

教育研究評議会（平成28年9月14日）

議題・外国人留学生宿舍及び外国人研究者等宿舍の料金改正等について

- ・Integrated Science Programに係る奨学制度の制定について
- ・情報セキュリティ対策と個人情報保護の一元的管理について
- ・国際連携機構の設置について
- ・諸規則の制定及び一部改正について

報告事項・全学運用教員の措置について

- ・次期総長の選考日程等について
 - ・北海道大学緑のピアガーデン2016の実施報告について
 - ・医理工学院，国際感染症学院，国際食資源学院の設置審査の結果について
 - ・教育関係共同利用拠点の認定について
 - ・寄附分野の設置について
 - ・平成29年度概算要求について
 - ・平成28年度補正予算（第2号）について
 - ・学生の懲戒について
-

経営協議会（平成28年9月26日）

議題・外国人留学生宿舍及び外国人研究者等宿舍の料金改正等について

- ・Integrated Science Program（学士課程）に係る奨学制度の制定について

報告事項・第2期中期目標期間評価について

- ・国際連携機構の設置について
 - ・大型プロジェクトの進捗状況等の報告について
 - ・平成29年度概算要求について
 - ・平成28年度補正予算（第2号）（案）について
-

役員会（平成28年9月27日）

議案・国際連携機構の設置について

- ・外国人留学生宿舍及び外国人研究者等宿舍の料金改正等について
- ・Integrated Science Programに係る奨学制度の制定について
- ・情報セキュリティ対策と個人情報保護の一元的管理について
- ・諸規則の制定及び一部改正について
- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・北大フロンティア基金の事業展開について
- ・諸規則の制定について

協議事項・情報セキュリティ対策基本計画の策定について

報告事項・北海道大学ホームカミングデー2016の実施報告について

- ・東日本大震災等で被災した本学学部志願者への受験支援金の給付について
 - ・事務組織の見直しについて
-

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

国立大学法人北海道大学北大フロンティア基金規程

(平成28年9月28日海大達第123号)

北大フロンティア基金の管理及び運営に関し必要な事項を定め、その適正な運用に資することを目的として、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際連携機構規程

(平成28年10月1日海大達第128号)

本年10月1日付けで、本学の運営組織である国際本部を廃止し、新たに国際連携機構を設置することに伴い、機構の組織及び運営について所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学国際連携機構日本語・日本文化研修コース規程

(平成28年10月1日海大達第129号)

本年10月1日付けで設置される国際連携機構に、外国人留学生に対する日本語、日本文化及び日本事情に関する教育プログラムとして日本語・日本文化研修コースを置くことに伴い、当該研修コースの実施に関し所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学日本語研修コース規程

(平成28年10月1日海大達第130号)

本年10月1日付けで設置される国際連携機構に、外国人留学生に対する日本語教育プログラムとして日本語研修コースを置くことに伴い、当該研修コースの実施に関し所要の定めを行ったものです。

北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第146号)

本学において行う病的材料に係る検査料について、実施する検査項目を追加するため、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(平成28年10月1日海大達第151号)

学務部及び国際部において5講時以降に対応する窓口業務等を行うこと並びに観光学高等研究センターに勤務する職員に係る勤務時間帯を整備することに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員労働時間、休憩、休日及び休暇規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第162号)

総務企画部人事課厚生労務室所属の職員に係る勤務時間帯を整備すること及び事務組織の見直しが行われることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員表彰規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第163号)

国際業務で顕著な功績があった者に対する表彰制度を創設することに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センターの一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第187号)

本年10月1日付けで、理学研究院附属地震火山研究観測センターに置く分野の名称を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター宿泊施設利用規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第188号)

本学北方生物圏フィールド科学センターに置く宿泊施設の利用に用いる様式の見直しを行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学総長選考規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第193号)

本年10月1日付けで、本学の運営組織である国際本部を廃止し、新たに国際連携機構を設置すること、並びに総長選考方法等の見直しに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第194号)

本学のオープンファシリティについて、設備の追加及び使用料の変更を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学客員教員規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第195号)

本年10月1日付けで、本学の運営組織である国際本部を廃止し、新たに国際連携機構を設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学通則の一部を改正する規則

(平成28年10月1日海大達第196号)

外国人留学生を対象として特別に編成する理系学士課程教育プログラムにおける私費外国人留学生の入学者選抜に係る検定料の額を定めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

(平成28年10月1日海大達第124号)

国立大学法人北海道大学内部監査規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第125号)

国立大学法人北海道大学高等教育推進機構規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第126号)

国立大学法人北海道大学大学力強化推進本部規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第127号)

北海道大学教務委員会規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第131号)

北海道大学学生委員会規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第132号)

国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理委員会規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第133号)

国立大学法人北海道大学における共同プロジェクト拠点の認定等に関する規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第134号)

北海道大学通則の一部を改正する規則

(平成28年10月1日海大達第135号)

北海道大学大学院通則の一部を改正する規則

(平成28年10月1日海大達第136号)

北海道大学名誉学位規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第137号)

北海道大学研究生規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第138号)

北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第139号)

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第140号)
北海道大学短期留学プログラム規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第141号)
北海道大学特別修学支援室規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第142号)
北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第143号)
国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第144号)
国立大学法人北海道大学受託研究取扱規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第145号)
北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第147号)
北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第148号)
北海道大学私学研修員受入れ規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第149号)
北海道大学中国・人材育成事業研修員規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第150号)
国立大学法人北海道大学年俸制教員の業績評価の実施に関する規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第152号)
国立大学法人北海道大学における教員のクロスアポイントメントの適用に関する規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第153号)
国立大学法人北海道大学における教員の任期に関する規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第154号)
国立大学法人北海道大学ハラスメント防止規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第155号)
国立大学法人大学職員兼業規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第156号)
国立大学法人利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第157号)
国立大学法人北海道大学における研究活動上の不正行為に関する規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第158号)
国立大学法人北海道大学における研究費の不正使用に関する規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第159号)
国立大学法人北海道大学における公益通報の処理及び公益通報者の保護等に関する規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第160号)
国立大学法人北海道大学コンプライアンス基本規程の一部を改正する規程	(平成28年10月1日海大達第161号)

- 国立大学法人北海道大学職員の懲戒の手続きに関する規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第164号)
- 国立大学法人北海道大学教員のサバティカル研修に関する規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第165号)
- 北海道大学名誉教授称号授与規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第166号)
- 北海道大学招へい教員規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第167号)
- 国立大学法人北海道大学全学運用教員規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第168号)
- 国立大学法人北海道大学安全衛生管理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第169号)
- 国立大学法人北海道大学リスク管理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第170号)
- 国立大学法人北海道大学災害等危機対策規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第171号)
- 国立大学法人北海道大学安全保障輸出管理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第172号)
- 国立大学法人北海道大学公印規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第173号)
- 国立大学法人北海道大学文書処理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第174号)
- 国立大学法人北海道大学法人文書管理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第175号)
- 国立大学法人北海道大学情報公開規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第176号)
- 国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第177号)
- 国立大学法人北海道大学における個人情報の開示等に関する規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第178号)
- 国立大学法人北海道大学情報セキュリティ対策規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第179号)
- 国立大学法人北海道大学における財務及び会計に関する職務権限規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第180号)
- 国立大学法人北海道大学予算決算及び経理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第181号)
- 国立大学法人北海道大学固定資産管理規程の一部を改正する規程
(平成28年10月1日海大達第182号)
- 国立大学法人北海道大学寄附金規則の一部を改正する規則
(平成28年10月1日海大達第183号)

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第184号)

国立大学法人北海道大学借上宿舎等規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第185号)

国立大学法人北海道大学入構車両規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第186号)

北海道大学保健センター運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第189号)

北海道大学国際連携研究教育局規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第190号)

北海道大学国際連携研究教育局運営委員会規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第191号)

国立大学法人北海道大学事務組織規程の一部を改正する規程

(平成28年10月1日海大達第192号)

本年10月1日付けで、本学の運営組織である国際本部を廃止し、新たに国際連携機構を設置することに伴い、所要の改正を行ったものです。

表敬訪問

国内

年月日	来訪者
28.9.27	イオン北海道株式会社 取締役兼常務執行役員 竹垣 吉彦 氏
28.10.26	株式会社日本政策投資銀行 代表取締役社長 柳 正憲 氏, 常務執行役員 関根 久修 氏, 北海道支店長 松嶋 一重 氏



イオン北海道株式会社 取締役兼常務執行役員
竹垣 吉彦 氏 (中央)



株式会社日本政策投資銀行
代表取締役社長 柳 正憲 氏 (中央右),
常務執行役員 関根 久修 氏 (右から2人目),
北海道支店長 松嶋 一重 氏 (右側)

(総務企画部広報課)

■人事

平成28年7月21日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【経営協議会委員】 (期間：平成30年7月20日まで)	児 嶋 秀 平	北海道経済産業局長

平成28年9月16日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院理学研究院教授	正 宗 淳	東北大学大学院情報科学研究科准教授
【准教授】 大学院文学研究科准教授	佐 野 勝 彦	北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教
【助教】 国際本部助教	TEH OOI KOCK	採用

平成28年9月23日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【技術職員等】 北海道大学病院医療技術部臨床検査技師	駒 込 香 織	採用

平成28年9月30日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【准教授】 (辞職)	李 振 風 大 橋 貴 石 村 源 生	電子科学研究所附属社会創造数学研究センター准教授 遺伝子病制御研究所准教授 高等教育推進機構准教授
【講師】 (辞職)	吉 田 繁	大学院保健科学研究院講師
【助教】 (辞職)	李 ブン静 高 橋 昌 幸 寺 下 貴 美 土 屋 邦 彦	大学院法学研究科助教 大学院歯学研究科助教 大学院保健科学研究院助教 北海道大学病院助教
【専門職 (学術)】 (辞職)	佐久間 温 子	産学・地域協働推進機構学術専門職
【技術職員等】 (辞職)	高 村 茂 生 宮 下 里 彩	北海道大学病院薬剤部薬務室長 北海道大学病院看護部看護師
【特任教授 (再雇用)】 (辞職)	三 輪 聡 一	大学院医学研究科特任教授
【嘱託職員】 (辞職)	当 山 千 鶴 子	函館キャンパス事務部

平成28年10月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p>【部局長・施設長等】 社会科学実験研究センター長 (期間：平成30年9月30日まで) 国際連携機構長 (期間：平成29年3月31日まで)</p>	<p>結 城 雅 樹 上 田 一 郎</p>	<p>大学院文学研究科教授 理事 (副学長)</p>
<p>【教授】 大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授 大学院情報科学研究科教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院地球環境科学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院工学研究院教授 国際連携機構教授 国際連携機構国際教育研究センター教授 国際連携機構国際教育研究センター教授 国際連携機構国際教育研究センター教授 国際連携研究教育局・大学院医学研究科教授</p>	<p>中 川 晶比兒 橋 本 守 沖 野 龍 文 鈴 木 光 次 野 田 隆 史 松 浦 英 幸 渡 部 要 一 川野辺 創 小 林 由 子 高 橋 彩 山 下 好 孝 清 水 伸 一</p>	<p>大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター准教授 大阪大学大学院基礎工学研究科准教授 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院地球環境科学研究院准教授 大学院農学研究院准教授 海上・港湾・航空技術研究所 国際本部副本部長 国際本部グローバル教育推進センター教授 国際本部グローバル教育推進センター教授 国際本部グローバル教育推進センター教授 国際連携研究教育局・大学院医学研究科准教授</p>
<p>【准教授】 大学院法学研究科准教授 大学院獣医学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院情報科学研究科准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 大学院理学研究院准教授 遺伝子病制御研究所准教授 国際連携機構国際教育研究センター准教授 国際連携機構国際教育研究センター准教授 国際連携機構国際教育研究センター准教授 国際連携機構国際教育研究センター准教授 国際連携機構国際教育研究センター准教授 国際連携機構国際教育研究センター准教授 (転出) 宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所</p>	<p>馬 場 香 織 高 田 健 介 小 川 貴 弘 高前田 伸 也 萩 原 克 益 加 藤 徹 長谷部 高 広 浜 向 直 澤 新一郎 青 木 麻衣子 小河原 義 朗 鄭 惠 先 中 村 重 穂 FIRKOLA PETER 山 田 智 久 TASKER ELIZABETH JANE</p>	<p>採用 徳島大学先端酵素学研究所准教授 大学院情報科学研究科助教 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教 大学院理学研究院助教 大学院理学研究院助教 大学院理学研究院助教 大学院理学研究院助教 東京大学大学院医学系研究科助教 国際本部グローバル教育推進センター准教授 国際本部グローバル教育推進センター准教授 国際本部グローバル教育推進センター准教授 国際本部グローバル教育推進センター准教授 国際本部グローバル教育推進センター准教授 国際本部グローバル教育推進センター准教授 大学院理学研究院准教授</p>
<p>【講師】 大学院薬学研究院講師 大学院農学研究院講師 大学院農学研究院講師 北海道大学病院講師 (転出) 高知大学人文社会科学部講師</p>	<p>柏 倉 淳 一 小 松 知 未 重 富 顕 吾 敦 賀 健 吉 深 山 誠 也</p>	<p>採用 採用 大学院農学研究院助教 北海道大学病院助教 大学院経済学研究科助教</p>
<p>【助教】 大学院医学研究科助教 大学院水産科学研究院助教 大学院地球環境科学研究院助教 大学院理学研究院助教 大学院薬学研究院助教</p>	<p>PAUDEL SARAD 石 原 千 晶 RAM AVTAR LI XIAOWEI 林 禄 清</p>	<p>採用 採用 採用 採用 採用</p>

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
大学院農学研究院助教	鈴木 裕	採用
大学院農学研究院助教	丸山 隼人	採用
大学院保健科学研究院助教	唐 明輝	採用
大学院工学研究院助教	GUIZANI MOKHTAR	採用
大学院工学研究院助教	NATALY CAROLINA ROSERO NAVARRO	採用
大学院工学研究院助教	PARK HYUNJIN	採用
大学院工学研究院助教	堀 千 明	採用
北海道大学病院助教	堀 田 記世彦	採用
低温科学研究所助教	平 野 大 輔	採用
電子科学研究所助教	袖 山 健 一	採用
国際連携機構助教	ARTEAGA ARTEAGA FERNANDO	国際本部助教
国際連携機構助教	WAKEMAN KEVIN CHRISTOPHER	国際本部助教
国際連携機構助教	周 波	国際本部助教
国際連携機構助教	周 睿 風	国際本部助教
国際連携機構助教	W. M. C. SAMEERA	国際本部助教
国際連携機構助教	TEH OOI KOCK	国際本部助教
国際連携機構助教	PETTITT ALEXANDER ROBERT	国際本部助教
国際連携機構助教	YORDANOV BORISLAV TSONEV	国際本部助教
【専門職 (学術)】		
国際連携機構学術主任専門職	石 井 治 恵	国際本部学術主任専門職
国際連携機構学術主任専門職	武 村 理 雪	国際本部学術主任専門職
国際連携機構学術主任専門職	南 波 直 樹	国際本部学術主任専門職
国際連携機構学術専門職	石 倉 香 理	国際本部学術専門職
国際連携機構学術専門職	川 端 千 鶴	国際本部学術専門職
国際連携機構学術専門職	田 村 早 紀	国際本部学術専門職
国際連携機構学術専門職	吉 田 純 子	国際本部学術専門職
【専門職 (特定)】		
総務企画部情報企画課特定専門職	金 子 修 己	採用
【部長】		
国際部長 (再掲) 国際連携機構教授	島 竜一郎 川野辺 創	国際本部教授 国際本部副本部長
【次長】		
国際部次長 (兼) 国際部国際企画課長	坂 本 秀 敬	国際本部副本部長代理 (兼) 国際部国際企画課長
【課長・事務長・室長】		
国際部国際連携課長	齋 藤 幸 義	国際本部国際連携課長
国際部国際教務課長	萩 原 隆 史	国際本部国際教務課長
国際部国際交流課長	清 水 和 子	国際本部国際交流課長
【補佐】		
総務企画部情報企画課 (兼務)	吉 田 年 克	総務企画部総務課課長補佐
研究推進部研究支援課課長補佐	柳 橋 光 人	財務部調達課係長
国際部国際企画課課長補佐	羽 澤 明 文	研究推進部研究支援課課長補佐
国際部国際連携課課長補佐	鴨志田 敏 則	国際本部国際連携課課長補佐
国際部国際教務課課長補佐	中 谷 慎 志	国際本部国際交流課課長補佐
理学・生命科学事務部事務課課長補佐	清 水 智 之	工学系事務部総務課課長補佐
工学系事務部総務課課長補佐	船 曳 康 徳	学務部学務企画課係長

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
<p>【専門員】</p> <p>国際部国際連携課専門員 国際部国際交流課専門員</p>	<p>佐 藤 ひとみ 石 黒 公 美</p>	<p>国際本部国際連携課専門員 国際本部国際教務課専門員</p>
<p>【係長】</p> <p>総務企画部情報企画課 (兼務) 財務部調達課係長 学務部学務企画課係長 学務部学生支援課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際連携課係長 国際部国際教務課係長 国際部国際教務課係長 国際部国際教務課係長 国際部国際教務課係長 国際部国際交流課係長 附属図書館管理課係長 函館キャンパス事務部係長 環境科学事務部係長 工学系事務部教務課係長 北方生物圏フィールド科学センター係長</p>	<p>菅 原 暁 子 福 地 由 香 小 島 将 人 山 本 直 美 巽 貞 信 永 井 敏 子 難波江 有 三 山 口 聡 子 渡 辺 明 内 田 めぐみ 柏 原 麻 美 片 野 靖 子 細 田 淳 子 対 馬 樹 里 山 本 明 広 奥 野 力 武 部 将 智 江 島 正 博 木 村 勉</p>	<p>総務企画部総務課係長 附属図書館管理課係長 環境科学事務部係長 工学系事務部教務課係長 国際本部国際連携課係長 国際本部国際連携課係長 国際本部国際連携課係長 国際本部国際企画課係長 国際本部国際交流課係長 国際本部国際教務課係長 国際本部国際教務課係長 国際本部国際教務課係長 国際本部国際教務課係長 国際本部国際教務課係長 国際本部国際教務課係長 北方生物圏フィールド科学センター係長 総務企画部総務課主任 北方生物圏フィールド科学センター主任 学務部学務企画課係長 法学研究科・法学部主任</p>
<p>【主任】</p> <p>総務企画部総務課主任 国際部国際企画課主任 国際部国際連携課主任 国際部国際連携課主任 国際部国際教務課主任 国際部国際教務課主任 国際部国際交流課主任 国際部国際交流課主任 国際部国際交流課主任 文学研究科・文学部主任 函館キャンパス事務部主任 工学系事務部総務課主任 (出向) 日本学術振興会国際事業部人物交流課主任</p>	<p>清 水 亮 博 山 内 務 巨 石 原 壮太郎 角 家 由紀子 高 木 敦 子 平 岩 和 之 小 澤 響 子 嘉 見 拓 也 細 貝 美 穂 西 尾 慎一郎 小 関 弘 悦 蜂 谷 真 央</p>	<p>医学系事務部総務課主任 国際本部国際企画課主任 国際本部国際連携課主任 国際本部国際連携課主任 国際本部国際教務課主任 国際本部国際交流課主任 国際本部国際交流課主任 国際本部国際教務課主任 北キャンパス合同事務部主任 学務部学生支援課主任 文学研究科・文学部主任 総務企画部企画課主任</p>
<p>【係員】</p> <p>総務企画部情報企画課 (兼務) 学務部学務企画課 学務部学務企画課 学務部学生支援課 学務部入試課 研究推進部産学連携課 国際部国際連携課 国際部国際連携課 国際部国際連携課 国際部国際連携課 国際部国際連携課 国際部国際教務課 国際部国際教務課</p>	<p>引 地 華 恵 蝦 名 慧 高 崎 友 香 伊 藤 一 馬 河 野 未 幸 宮 崎 薫 工 藤 奈津美 佐 川 浩 太 伊 達 龍太郎 ハース 千佳子 山 下 史 恵 五十嵐 里 奈 池 森 千 郎</p>	<p>総務企画部総務課 獣医学研究科・獣医学部 北キャンパス合同事務部 函館キャンパス事務部 経済学研究科・経済学部 文学研究科・文学部 国際本部国際連携課 国際本部国際連携課 北海道大学病院総務課 国際本部国際交流課 国際本部国際連携課 国際本部国際教務課 国際本部国際教務課</p>

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
国際部国際教務課	伊 藤 淑 恵	国際本部国際教務課
国際部国際教務課	三 宅 由 美	国際本部国際教務課
国際部国際交流課	船 越 雄 也	国際本部国際交流課
法学研究科・法学部	小野寺 沙 織	財務部調達課
経済学研究科・経済学部	出 店 遼	工学系事務部教務課
医学系事務部総務課	能 田 昌 久	研究推進部産学連携課
農学事務部	豊 島 理 恵	学務部入試課
北海道大学病院総務課	岡 坂 直 寛	工学系事務部総務課
北方生物圏フィールド科学センター	北 原 友 梨	総務企画部企画課
【技術職員等】		
北海道大学病院薬剤部薬務室長	久保田 康 生	北海道大学病院薬剤部医薬品情報室長
北海道大学病院薬剤部医薬品情報室長	沖 洋 充	北海道大学病院薬剤部麻薬管理室長
北海道大学病院薬剤部試験研究室長	仁 木 加寿子	北海道大学病院薬剤部薬剤師
北海道大学病院薬剤部麻薬管理室長	神 原 則 寛	北海道大学病院薬剤部試験研究室長

部局長等 (再任) 紹介

平成28年10月1日付

社会科学実験研究センター長に

結城 雅樹 教授

結城雅樹教授は、平成26年10月1日から社会科学実験研究センター長を務め、平成28年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、平成30年9月30日までです。

国際連携機構長に

上田 一郎 氏

上田一郎氏は、平成25年4月1日から国際本部長を務め、平成28年9月30日をもって国際本部を廃止し、国際連携機構を設置することに伴い、国際連携機構長に任命されました。

任期は、平成29年3月31日までです。

新任教授紹介

平成28年9月16日付



理学研究院教授に

正宗 淳 氏

数学部門数学分野

生年月日

昭和45年3月10日

最終学歴

東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了(平成11年9月)
博士(情報科学)(東北大学)

専門分野

大域解析学

平成28年10月1日付



法学研究科附属高等法政教育研究センター教授に

中川 晶比兒 氏

法動態部門

最終学歴

京都大学大学院法学研究科博士課程研究指導認定退学(平成16年3月)
博士(法学)(京都大学)

専門分野

経済法, 法的推論と経済分析



情報科学研究科教授に

はしもと まもる
橋本 守 氏

生命人間情報科学専攻
バイオエンジニアリング講座

生年月日

昭和41年 9月 3日

最終学歴

大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了（平成3年3月）
博士（学術）（東京大学）

専門分野

生体光計測，非線形光学



地球環境科学研究院教授に

おきの たつふみ
沖野 龍文 氏

統合環境科学部門
環境適応科学分野

生年月日

昭和39年10月19日

最終学歴

東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（平成5年3月）
博士（農学）（東京大学）

専門分野

天然物化学



地球環境科学研究院教授に

すずき こうじ
鈴木 光次 氏

地球圏科学部門
化学物質循環学分野

生年月日

昭和42年10月29日

最終学歴

名古屋大学大学院理学研究科博士課程後期課程満了（単位取得退学）（平成8年3月）
博士（理学）（名古屋大学）

専門分野

海洋生物地球化学，生物海洋学



地球環境科学研究院教授に

のだ たかし
野田 隆史 氏

環境生物科学部門
生態保全学分野

生年月日

昭和38年 3月20日

最終学歴

北海道大学大学院水産学研究科修士課程修了（平成元年3月）
水産学博士（北海道大学）

専門分野

個体群生態学，群集生態学，海洋生態学



農学研究院教授に

まつうら ひでゆき
松浦 英幸 氏

基盤研究部門生物機能化学分野

生年月日

昭和38年 4月 8日

最終学歴

北海道大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士後期課程修了（平成5年9月）
博士（農学）（北海道大学）

専門分野

天然物化学



工学研究院教授に

わたべ よういち
渡部 要一 氏

環境フィールド工学部門
防災地盤工学分野

生年月日

昭和42年 5月22日

最終学歴

東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了（平成7年3月）
博士（工学）（東京工業大学）

専門分野

地盤工学，土質力学，地盤環境学



国際連携機構教授に

かわの べ 創 氏

生年月日

昭和35年11月18日

最終学歴

上智大学法学部卒業（昭和60年3月）
英国・レディング大学大学院修士課程修了（平成元年12月）

専門分野

比較教育学，多文化共生



医学研究科教授に

しみず しんいち 氏

生年月日

昭和45年10月13日

最終学歴

北海道大学大学院医学研究科内科専攻博士課程修了（平成12年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

放射線治療医学

新任部課長等紹介

平成28年10月1日付



国際部長に

しま りゅういちろう 氏

昭和41年7月4日生

平成4年3月 九州大学大学院法学研究科修士課程修了
平成4年4月 文部省大臣官房会計課総務班
平成5年3月 文部省初等中等教育局高等学校課
平成6年10月 文部省学術国際局留学生課留学生交流政策室
平成7年4月 文部省学術国際局留学生課留学生交流政策室企画調査係長
平成8年9月 文部省体育局体育課企画掛長
平成9年7月 文部省大臣官房総務課行政改革推進室専門職員
平成11年4月 名古屋大学大学院法学研究科助教授
平成13年9月 文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐
平成14年8月 文部科学省大臣官房政策課専門官
平成15年4月 名古屋大学大学院教育発達科学研究科助教授
平成17年3月 文部科学省初等中等教育局国際教育課専門官・
ニューヨーク国際交流ディレクター
平成20年4月 文部科学省高等教育局学生支援課専門官
平成20年10月 インドネシア国民教育省高等教育総局（JICA長期専門家）
平成22年9月 文部科学省大臣官房国際課国際協力政策室室長補佐
（併）人物交流専門官
平成23年1月 放送大学学園事務局参事役・総合戦略企画室長
平成26年4月 北海道大学国際本部副本部長・教授



国際部次長（兼・国際部国際企画課長）に

さかもと ひでたか 氏

昭和43年10月15日生

放送大学教養学部卒業
昭和62年6月 京都大学医学部附属病院医事課
平成3年1月 京都大学経理部情報処理課
平成4年4月 文部省大臣官房政策課情報処理室
平成10年10月 文部省官房政策課情報処理室情報化振興係主任
平成11年4月 文部省体育局体育課企画係主任
平成11年10月 日本体育・学校健康センタースポーツ振興投票部企画事業課企画広報係主任
平成12年4月 日本体育・学校健康センタースポーツ振興投票部企画事業課情報管理係長
平成13年4月 日本体育・学校健康センタースポーツ振興投票部企画運営課情報管理係長
平成14年4月 文部科学省高等教育局医学教育課庶務係長
平成16年4月 文部科学省高等教育局学生支援課地域交流推進係長
平成17年4月 文部科学省高等教育局学生支援課地域交流推進専門職
平成17年10月 文部科学省高等教育局学生支援課厚生係長（併）活動支援係長
平成19年4月 東北大学教育・学生支援部学生支援課長
平成22年4月 独立行政法人日本学生支援機構情報部システム開発課長
（併）業務・システム最適化推進室副室長
平成24年4月 文部科学省大臣官房政策課情報化推進室情報システム専門官
平成26年4月 文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室
外国人学生指導専門官
平成27年4月 北海道大学総務企画部総務課長
平成28年4月 北海道大学国際本部副本部長代理（兼）国際部国際企画課長

訃報

名誉教授 佐久間 敏雄 氏
(享年84歳)



名誉教授 佐久間敏雄先生が、平成28年8月21日に逝去されました。ここに先生の生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和7年2月15日新潟県佐渡島に生まれ、同30年3月北海道大学農学部農芸化学科を卒業後、北海道開発局土木試験所土壤保全研究室に勤務されました。昭和45年10月に北海道大学農学部助教授に就任、同62年4月に教授に昇任され、農芸化学科土壤学講

座を担当されました。平成7年3月に停年退官されるまで、本学の教育と研究指導に尽力されました。また、19年間の永きにわたり放射線取扱主任者を務められ、現在の農学部のアイストープ研究環境の充実に対して大きな貢献をされました。

先生のご研究で、土壤生成、土壤物理、土壤化学の基礎研究を通して、土壤を巡る物質の循環を定量的に評価し、土壤の生産力、緩衝力を総合的に解き明かそうとされました。これは、酸性化、侵食、温室効果ガス排出、栄養塩流出といった土壤劣化、環境負荷を抑制し、土壤の生産性を持続させるために無くてはならない研究であり、現在の土壤学の中心概念の一つとなっています。

また、先生は、地域社会に対する貢献も惜しまれず、北海道農用地開発事業、北海道土地改良事業、国営土地

改良事業などの専門委員を務められ、道路緑化保全協会委員、道央自動車道土壤改良効果調査研究特別委員会委員長として道路防風林整備、周辺環境との調和を目指し尽力されました。さらに日本学術振興会特別研究等審査会専門委員、日本学術会議農業総合研究連絡委員会委員、文部省学術審議会専門委員を務められ、学問の振興と社会還元に対して大きな役割を果たされました。

このように、先生は、長期にわたる研究・教育活動を通して、国内外において、土壤学研究の発展に多大な功績を残されました。

先生の御霊が安らかでありますよう、ご冥福を心より祈念いたします。

(農学院・農学研究院・農学部)

編集メモ

●10月に入って一段と気温が下がり、日ごとに秋も深まってきました。秋の空に木々の彩りが映える美しい季節を迎えています。

●キャンパス内のイチョウ並木も色づきを増して、本年も多くの方が鑑賞に訪れています。

29日（土）・30日（日）には北大金葉祭、30日（日）には一般開放が行われました。





2013.10.26 函館本線 小沢～倶知安（共和町）

北の鉄道風景 43 黄葉の山路に挑む

秋が深まるにつれて広葉樹の色付きが始まる。日照時間が短くなり、朝晩の冷え込みが厳しくなることで、葉に含まれる葉緑素の分解が進み、その際にアントシアンやカロテノイドなどの色素が生成される。それらによって落葉前の葉が鮮やかに色付き、私達の目を楽しませてくれる。赤い色付きはアントシアン、黄色になるのはカロテノイドに由来している。例えば道北の大雪山系では、木々の葉が赤くな

る「紅葉」が目立つが、道央や道南では葉が黄色くなる「黄葉」が多いようだ。写真は黄葉の倶知安峠に挑む「SLニセコ号」である。同列車は2014年度で運行終了となった。黄葉の山路を駆けるSLの勇姿をもう二度と見るができなくなったのは寂しい限りだ。

情報科学研究科 准教授 山本 学

北大時報 ⑩ No.751 平成28年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html